

第17回(令和5年度 第2回)

和泉市立総合医療センター 経営評価委員会

次 第

日時: 令和6年3月26日(火)午後2時00分～

場所: 和泉市立総合医療センター 3階講堂

1. 開 会

- ①令和5年度第16回(前回)の指摘事項及び回答について … (資料1)

2. 議 題

- ②令和5年度 運営状況(4月～12月)について … (資料2)

- ③令和5年度 進行管理(PDCA)チェックシート … (資料3)
兼経営評価シート(4月～12月)について

- ④令和6年度 和泉市立総合医療センター事業計画書(案) … (資料4)
について

<資 料>

委員・出席者名簿

資料1 令和5年度第16回(前回)の指摘事項及び回答

資料2 令和5年度運営状況(4月～12月)

資料3 令和5年度 進行管理(PDCA)チェックシート兼経営評価シート
(4月～12月)

資料4 令和6年度 和泉市立総合医療センター 事業計画書(案)

<参考資料>

参考資料1 和泉市消防本部 救急搬送件数(4月～12月)

参考資料2 診療科別 紹介患者数(4月～12月)

参考資料3 診療科別 逆紹介患者数(4月～12月)

参考資料4 診療科別単価 前年度比較(4月～12月)

参考資料5 診療科別待ち時間(4月～12月)

委員名簿

委員長

(敬称略)

氏 名	所 属
高杉 豊	公益財団法人 大阪国際がん治療財団名誉理事長兼顧問

委員

(敬称略・50 音順)

氏 名	所 属
鹿島 洋一	和泉市医師会監事 特定医療法人新仁会 新仁会病院 理事長
木村 佳弘	桃山学院大学 経済学部 経済学科 准教授
辻 幸代	関西医療大学 保健看護学部 学部長・学科長
露口 六彦	税理士法人パートナーズ関西 代表（会長）税理士
吉岡 敏治	森ノ宮医療大学 副学長

出席者名簿

和泉市立総合医療センター（指定管理者）

（敬称略・順不同）

氏 名	所 属
村上 城子	和泉市立総合医療センター 総長
松下 晴彦	和泉市立総合医療センター 病院長
川口 いずみ	和泉市立総合医療センター 看護部長
岩谷 理佳子	和泉市立総合医療センター 副看護部長
澤村 明子	和泉市立総合医療センター 副看護部長
隈崎 聡美	和泉市立総合医療センター 医療安全室長
竹原 浩二	和泉市立総合医療センター 事務部長
古賀 栄司	和泉市立総合医療センター 事務次長
八巻 真弓	和泉市立総合医療センター 医事課 課長補佐
大西 拓也	和泉市立総合医療センター 総務課 係長
山西 護	和泉市立総合医療センター 総務課 主任

和泉市

氏 名	所 属
吉田 康人	副市長
藤原 一也	子育て健康部長
高橋 直継	子育て健康部健康づくり推進室長
米田 尚礼	子育て健康部健康づくり推進室病院経営管理担当課長
井上 昇二	子育て健康部健康づくり推進室病院経営管理担当総括主幹
若松 良和	子育て健康部健康づくり推進室病院経営管理担当総括主査

【令和5年度第16回（前回・書面審査）の指摘事項及び回答】

No.	発言者	指摘	回答	改善策
1	高杉委員長 吉岡・露口委員	待ち時間はどのように対応を行っているのか。	呼び出しシステムアプリ「HOSPA」を令和5年1月から小児科で試行し、他の診療科でも4月から試験運用を開始している。 待ち時間の短縮にはつながらないが待ち人数等の状況がかわかる。また検査結果も配信している。	アプリ活用していただけるように、待ち人数及び検査結果の配信など便利機能を周知している。また、今後、待ち時間減少につながるようバージョンアップなどの試行錯誤を行っていきます。
2	高杉委員長	救急受入件数が増えているのに何故評価点数が9なのか。	救急専門医（常勤医師）が1名であるためです。	救急医療拡充に向け増築棟建設を進めるとともに医師確保に努めています。
3	吉岡委員	救急搬送の受入れ率は。	常勤の脳神経外科医が不在となったため約75%となっています。	脳神経外科医の確保により、受入れ件数を増加できるよう努めます。
4	木村委員	毎回、入院稼働率の高さが議論となる。しかし患者を受け入れれば稼働率は上がる。しかし評価委員会では、稼働率を下げる議論をしている。結局どうするべきなのか整理する必要がある。	市民サービスを継続して行うため、稼働率を抑制することは難しいと考えている。稼働率が高くても救急患者の受入ができるよう、救急専門医の確保を含め、努力していく。	救急患者の入院率が高い。政策医療である救急搬送用のベッドを確保する必要があることから稼働率を抑えるよう努めます。
5	露口委員	＜経営強化プラン＞ 働き方改革が今後重点項目となってくる。医師等の時間外について、副業も含め把握できているのか。	副業については、時間数を含め申請していたようにし把握しています。	国が示す時間外労働のA水準（年 960 時間未満）を目指します。
6	木村委員	＜経営強化プラン＞ 地域救急貢献率はどのように算出するのか。市にとって重要な指標になるのではないのか。	救急車来院患者数を二次医療圏内救急搬送者搬送人数で割ったものである。	大阪府は、泉州2次医療圏の救急搬送推計件数を出さないとのこととで、各市の救急搬送予想件数等の統一した数字が無いことから指標としてプランに記載していません。 なお、和泉市消防本部搬送者数で割ったものは前プランから指標としています。

令和5年度 運営状況(4月～12月)

目 次

1. 令和5年度 事業計画	1
2. 医療機能に係る指標	1
(1). 和泉市立病院 新改革プラン数値目標分	
①患者数の前年度実績との比較	
②月別1日あたり患者数の推移(入院)	
③月別1日あたり患者数の推移(外来)	
④診療科別1日あたり患者数(入院)(4月～12月)	
⑤診療科別1日あたり患者数(外来)(4月～12月)	
⑥病床稼働率(4月～12月)	
⑦診療単価(4月～12月)	
⑧救急患者受入数(4月～12月)	
⑨和泉市消防本部 救急搬送(4月～12月)	
(2). その他、医療機能に係る指標	
①平均在院日数(4月～12月)	
②紹介率、逆紹介率(4月～12月)	
③手術者数(4月～12月)	
④健診(4月～12月)	
⑤医療事故等への対応(4月～12月)	
3. 職員数	8
①職員数の推移(非常勤職員含む)	
4. 患者サービス向上に係る取り組み	9
①取り組み状況	
②提案ポストへの投書件数	
5. 経営健全化に係る指標	11
①損益計算書(4月～12月)	
②貸借対照表	

1. 令和5年度 事業計画

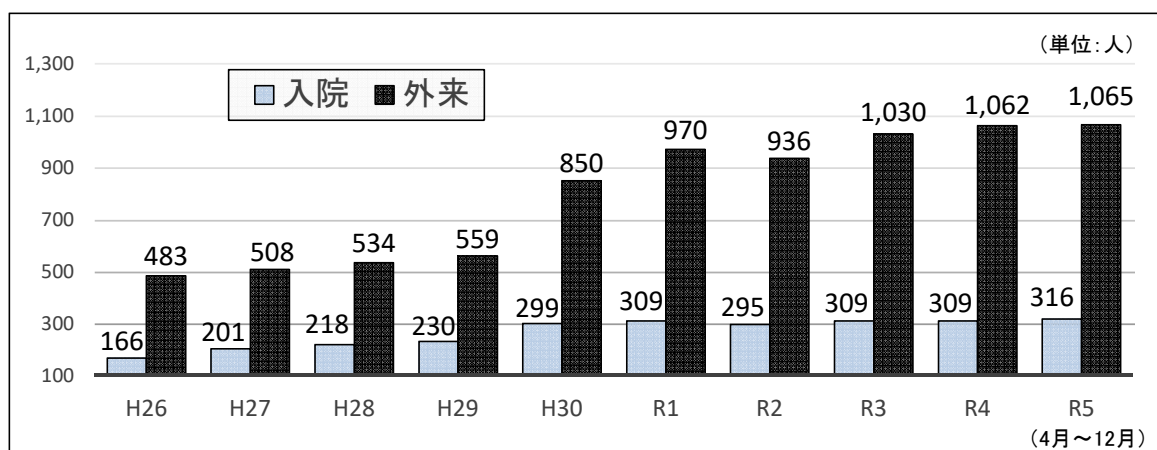
- ・主な取り組み
医師確保、急性期医療の拡充、がん医療を中心とした高度専門医療の拡大、医療機器整備等により医療機能強化
- ・1日あたり患者数
入院 292人(退院日の患者数を含む)
外来 1,008人

2. 医療機能に係る指標

(1). 和泉市立病院 新改革プラン数値目標分

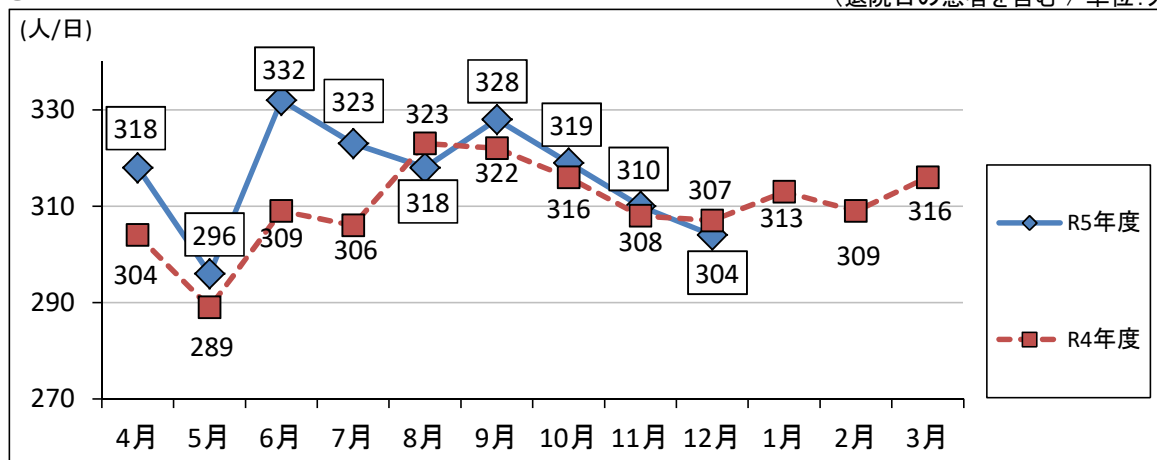
①患者数の前年度実績との比較

	実績(4月～12月分)			令和5年度 新改革プラン目標値 (4月～3月)
	令和5年度	令和4年度	比較(増減率)	
1日あたり入院患者数 (退院日の患者を含む)	316人	309人	7人 (+2.3%)	292人
1日あたり外来患者数	1,065人	1,062人	3人 (+0.3%)	1,008人



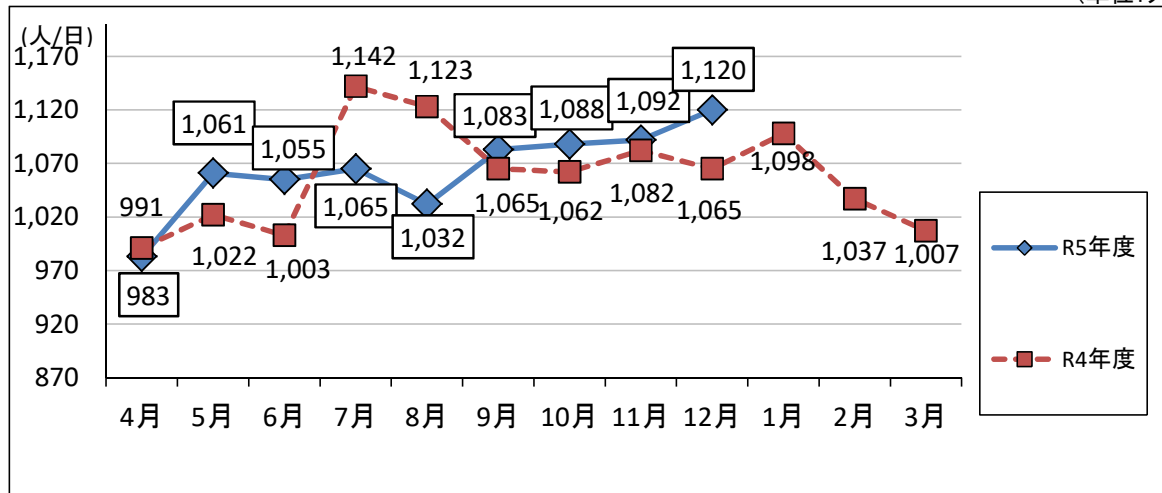
②月別1日あたり患者数の推移(入院)

(退院日の患者を含む / 単位:人)



③月別1日あたり患者数の推移(外来)

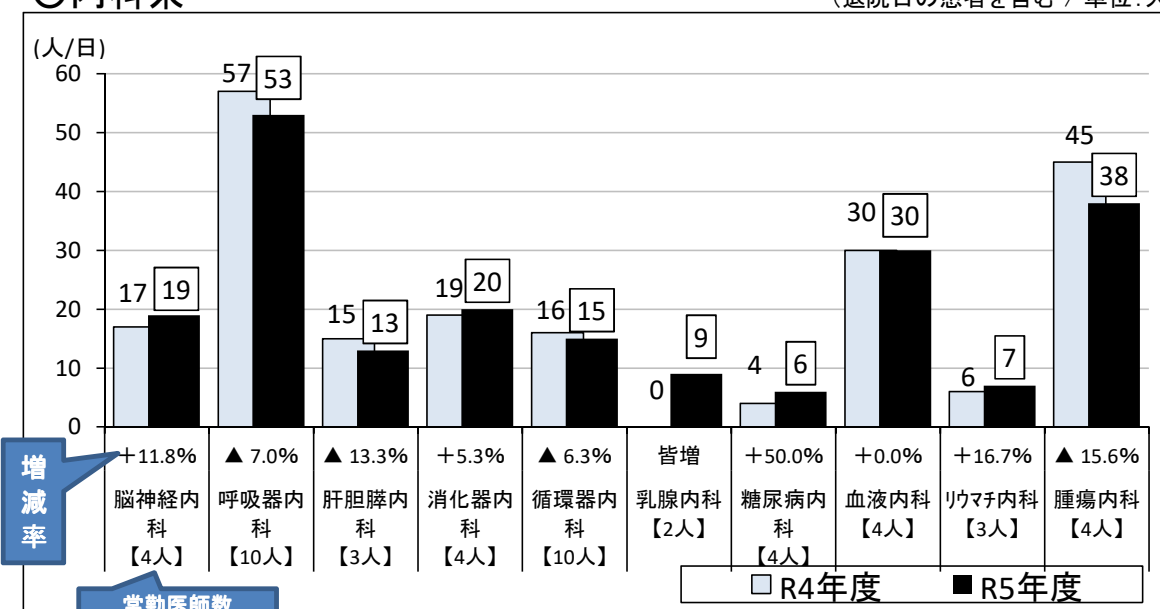
(単位:人)



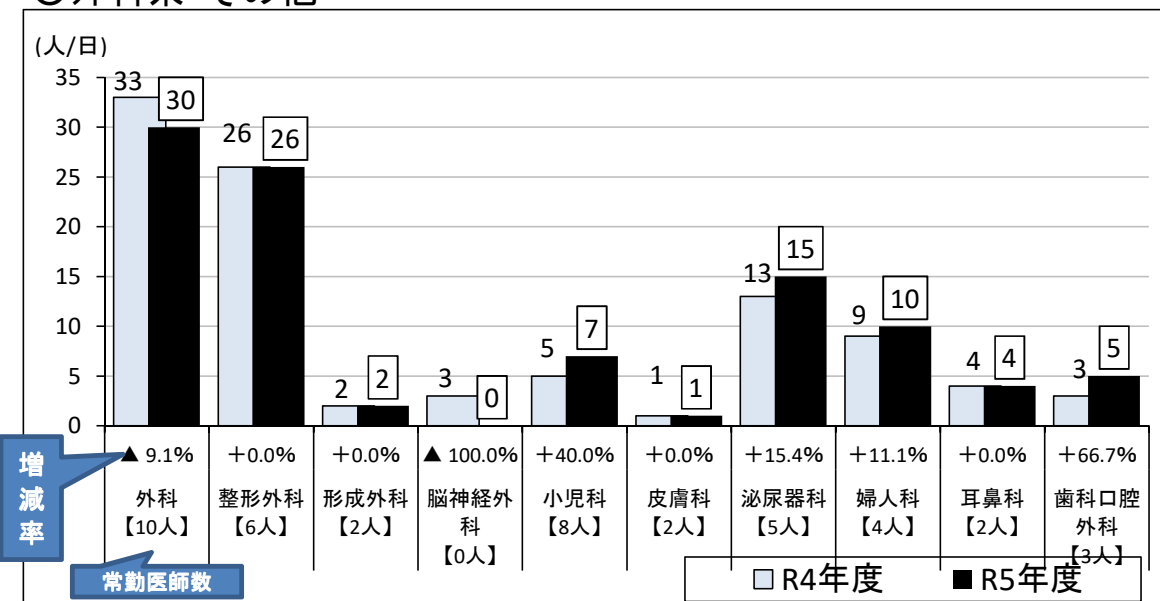
④診療科別 1日あたり患者数(入院)(4月～12月)

○内科系

(退院日の患者を含む / 単位:人)



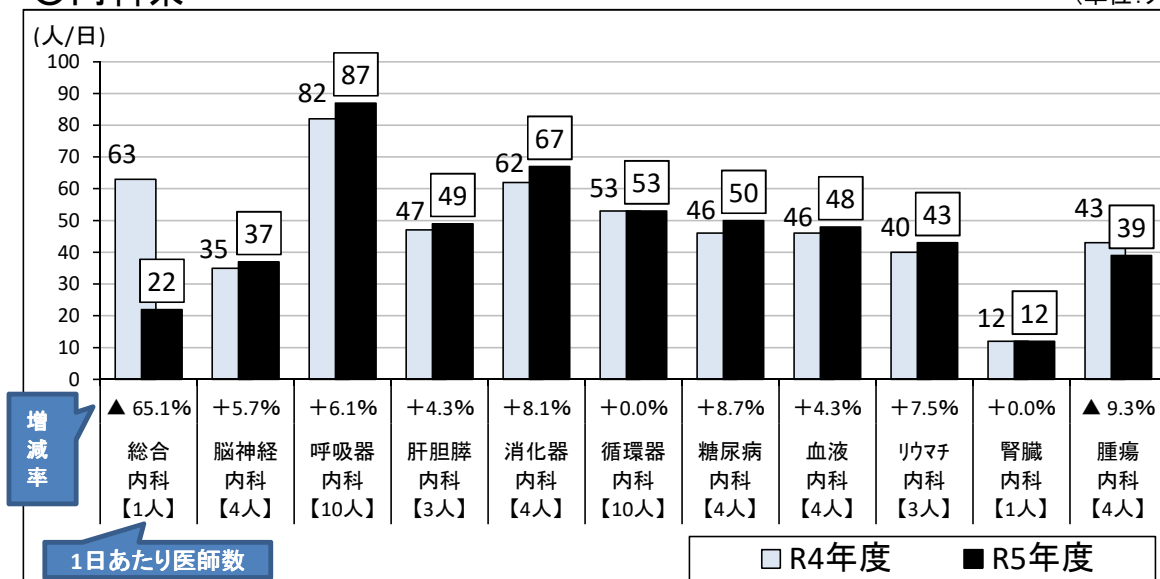
○外科系・その他



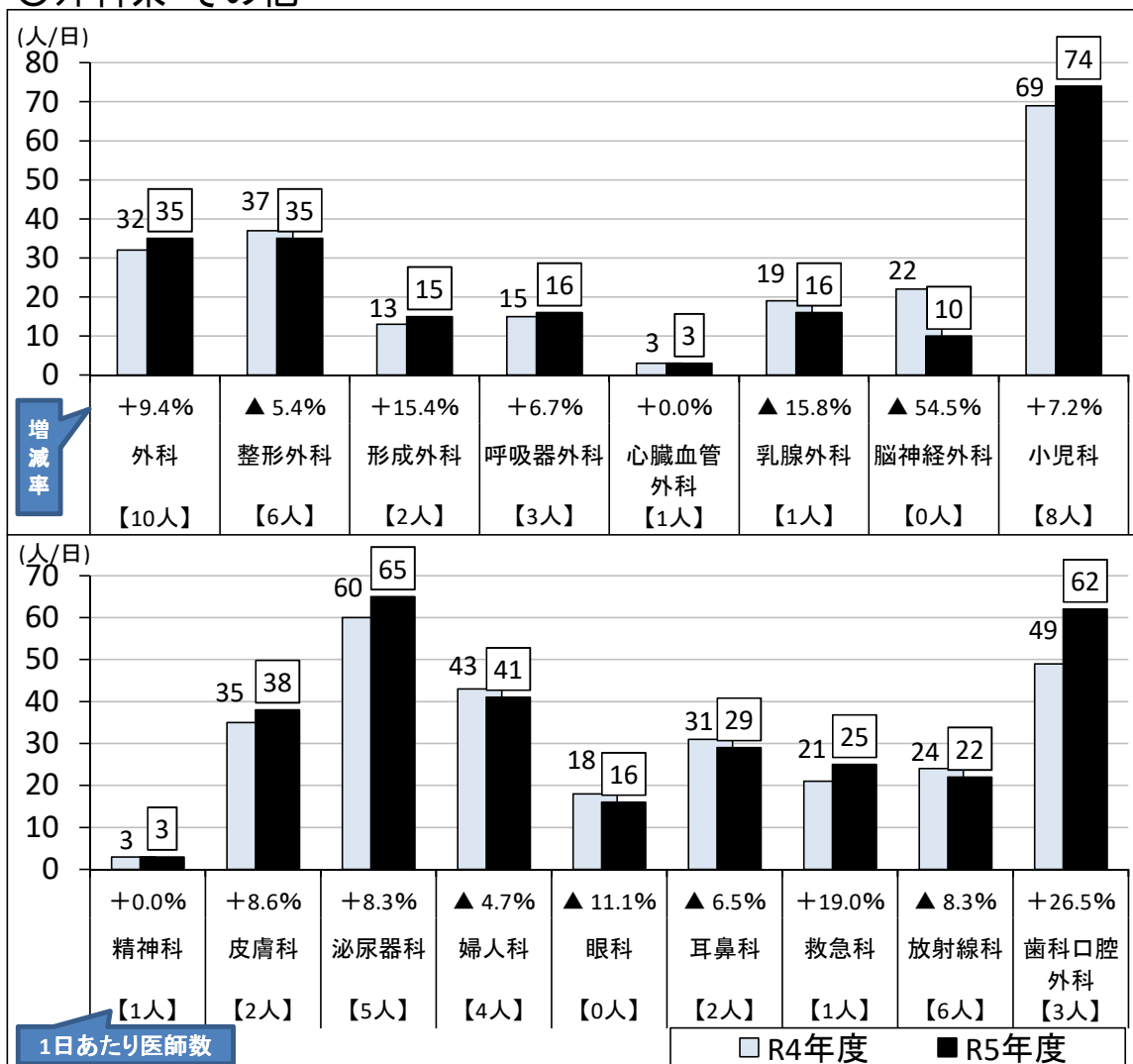
⑤診療科別1日あたり患者数(外来)(4月～12月)

○内科系

(単位:人)



○外科系・その他



※診療日が5日未満の診療科は、実診療日にて算出しています。

⑥病床稼働率(4月～12月)

(単位:人、床、日、%)

年度	稼働率	令和5年度新改革 プラン目標値 (4月～3月)	延患者数 ÷ (許可病床数 × 日数) × 100
令和5年度	103.1 %	95.0 %	87,016 ÷ (307 × 275) × 100
令和4年度	100.8 %	95.0 %	85,100 ÷ (307 × 275) × 100

⑦診療単価(4月～12月)

	実 績			令和5年度 新改革プラン目標値 (4月～3月)
	令和5年度	令和4年度	比較(増減率)	
入院診療単価 (退院日の患者を含む)	78,847円	76,662円	2,185円 (+2.9%)	73,000円
外来診療単価	24,140円	24,073円	67円 (+0.3%)	23,000円

⑧救急患者受入数(4月～12月)

(単位:人、%)

診療科	実 績		前年度 比較	実 施 状 況
	令和5年度	令和4年度		
小児科	2,579	2,097	+482 (+23.0)	毎週火曜日19:00～翌6:00 第2,4,5土曜日23:00～翌6:00
内科系 外科系	7,766	8,832	▲1,066 (▲12.1)	終日実施
合 計	10,345	10,929	▲584 (▲5.3)	
搬送者数	2,884	2,718	+166 (+6.1)	
搬送者の うち入院	903 (31.3%)	879 (32.3%)	24 (+2.7)	

⑨和泉市消防本部 救急搬送(4月～12月)

(単位:人、%)

区分	令和5年度	搬送率	令和4年度	搬送率	前年度比較 (増減率)	令和5年度 新改革プラン目標値	搬送率
和泉市立 総合医療センター	1,834	23.6	1,666	22.8	+168 (+10.1)	2,240 (年間)	28.0% (年間)
市内民間病院	2,933	37.8	2,924	40.0	+9 (+0.3)		
市 外	2,994	38.6	2,720	37.2	+274 (+10.1)		
合 計	7,761		7,310		+451 (+6.2)	(和泉市消防本部統計より)	

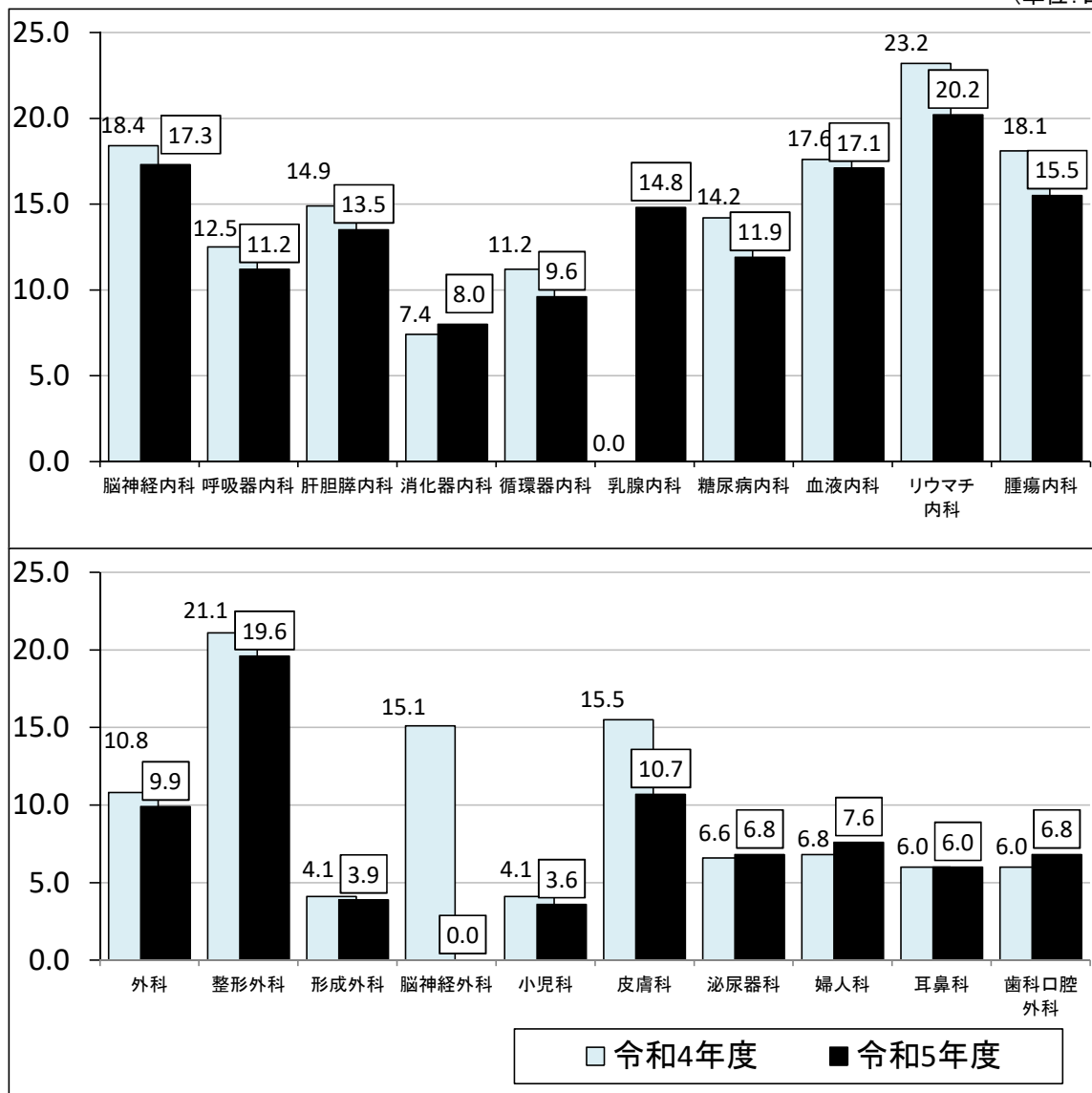
(2). その他、医療機能に係る指標

①平均在院日数(4月～12月)

(単位:日)

	令和5年度	令和4年度	増減
全診療科平均	10.8	12.1	▲ 1.3

(単位:日)



②紹介率、逆紹介率(4月～12月)

	令和5年度	令和4年度	差
紹介率	65.5 %	72.5 %	▲7.0%
逆紹介率	85.1 %	91.0 %	▲5.9%

③手術件数(4月～12月)

(単位:人、%)

指 標		令和5年度	令和4年度	差	増減率(%)
		うち全麻	うち全麻	うち全麻	うち全麻
手術数	外 科	864 796	736 685	+128 +111	+17.4 16.2
	整形外科	362 356	336 331	+26 +25	+7.7 7.6
	婦人科	199 191	204 197	▲5 ▲6	▲2.5 ▲3.0
	皮膚科	36 0	42 1	▲6 ▲1	▲14.3 ▲100.0
	形成外科	267 53	235 46	+32 +7	+13.6 15.2
	泌尿器科	422 182	355 155	+67 +27	+18.9 17.4
	脳神経外科	0 0	7 1	▲7 ▲1	▲100.0 ▲100.0
	耳鼻いんこう科	104 101	110 101	▲6 +0	▲5.5 0.0
	歯科口腔外科	175 123	89 89	+86 +34	+96.6 38.2
	計	2,429 1,802	2,114 1,606	+315 +196	+14.9 12.2

④健診(4月～12月)

(単位:人、%)

指 標	令和5年度	令和4年度	差	増減率
人間ドック	1,746	1,594	152	+9.5%
特定健診	1,033	901	132	+14.7%

⑤医療事故等への対応(4月～12月)

○レベル別件数

(単位: 件)

	レベル	職 種	令和5年度	令和4年度	事例(本年度)
インシデント	0～3a	医師	145	104	・好事例報告 ・転倒・転落後様子観察 ・点滴流量間違い ・内服薬服薬間違い ・点滴ルート自己抜去 ・胃管・バルンカテーテル自己抜去 ・患者誤認(検査案内など) ・血糖測定・採血取り忘れ等
		看護師	1,994	1,534	
		薬剤師	75	63	
		放射線技師	82	56	
		臨床検査技師	25	24	
		リハビリ	41	45	
		その他	229	167	
		計	2,591	1,993	
アクシデント (医療事故)	3b	医師	4	6	<重複事例報告あり> ・転倒・転落・体位変換などによる骨折など 10件 ・処置・手術関連合併症 4件 ・治療・経過観察中の状態変化 4件
		看護師	9	11	
		薬剤師	0	0	
		放射線技師	0	0	
		臨床検査技師	0	0	
		リハビリ	2	1	
		その他	0	0	
		計	15	18	
	4a～5	医師	0	0	
		看護師	0	0	
		薬剤師	0	0	
		放射線技師	0	0	
		臨床検査技師	0	0	
		リハビリ	0	0	
		その他	0	0	
		計	0	0	
	計 (3b～5)	医師	4	6	
		看護師	9	11	
		薬剤師	0	0	
		放射線技師	0	0	
		臨床検査技師	0	0	
		リハビリ	2	1	
		その他	0	0	
		計	15	18	

※その他内訳:
栄養科、ME

○種類別件数

(単位: 件)

概要	令和5年度	令和4年度	増減
薬剤	839	594	245
輸血	22	10	12
治療・処置	110	77	33
医療機器等	118	74	44
ドレーン・チューブ	149	163	▲ 14
検査	263	228	35
療養上の世話	507	359	148
その他	598	506	92
合計	2,606	2,011	595

(参考) 医療事故レベル

インシデント	0	エラーや医薬品・医療用具の不具合が見られたが、患者には実施されなかった
	1	患者への実害はなかった(何らかの影響は与えた可能性は否定できない)
	2	処置や治療行わなかった(患者観察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全確認のための検査などの必要性が生じた)
	3a	単純な処置や治療を要した(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など)
アクシデント	3b	濃厚な処置や治療を要した(バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など)
	4a	永続的な障害が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題を伴わない
	4b	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題を伴う
	5	死亡(原疾患の自然経過によるものを除く)

3. 職員数

①職員数の推移(非常勤職員含む)

■職員数の推移

(単位:人)

	R5.12	R5.4	R4.4	R3.4	R2.4	H31.4
医師	149.32	147.59	133.20	136.88	125.64	110.45
常勤	131	131	121	120	111	97
非常勤 (常勤換算)	136 (18.32)	135 (16.59)	121 (12.20)	129 (16.88)	127 (14.64)	113 (13.45)
看護部	388.64	397.84	398.50	391.07	337.86	310.93
常勤	362	372	370	363	359	292
非常勤 (常勤換算)	33 (26.64)	31 (25.84)	35 (28.50)	32 (28.07)	32 (18.86)	26 (18.93)
医療技術職	154.53	157.53	149.80	135.97	125.25	116.10
常勤	149	153	144	130	120	113
非常勤 (常勤換算)	7 (5.53)	6 (4.53)	8 (5.80)	9 (5.97)	8 (5.25)	6 (3.10)
合計	692.49	702.96	681.50	663.92	628.75	537.48
常勤	642	656	635	613	590	502
非常勤 (常勤換算)	176 (50.49)	172 (46.96)	164 (46.50)	170 (50.92)	167 (38.75)	145 (35.48)

※ 看護部は看護師免許取得者のみ。

※ 常勤換算人員は $\frac{\text{勤務時間}}{7.5 \text{ 時間}} \times \frac{\text{月間勤務日数(常勤)}}{21.67 \text{ 日}}$

■常勤医師の状況

(単位:人)

	R5.12	R5.4	R4.4	R3.4	R2.4	H31.4
内科	2	2	1	1	1	0
循環器内科	10	10	9	8	7	4
呼吸器内科	10	10	9	7	8	7
消化器内科(内視鏡)	5	5	3	2	3	4
肝胆脾内科	3	3	3	3	3	3
血液内科	4	4	4	4	4	4
内分泌・糖尿病内科	4	3	2	4	4	4
脳神経内科	4	4	3	4	3	2
腫瘍内科	7	7	9	8	8	8
緩和ケア内科	2	2	1	1	1	1
外科	15	15	15	15	13	11
消化器外科	10	10	8	8	8	6
心臓血管外科	1	1	1	1	1	1
乳腺外科	1	1	2	2	1	1
呼吸器外科	3	3	4	4	3	3
形成外科	2	2	1	1	1	1
整形外科	6	6	6	6	6	6
小児科	8	8	8	7	6	6
脳神経外科	0	0	1	2	2	3
泌尿器科	5	6	5	5	5	4
皮膚科	2	2	3	3	3	3
婦人科	4	4	4	4	5	4
耳鼻いんこう科	2	2	2	3	2	1
リウマチ内科	3	3	3	3	3	3
救急科	1	1	1	0	0	0
放射線科	6	6	6	6	6	6
精神科	1	1	1	1	1	0
麻酔科	5	5	3	5	4	4
病理診断科	3	3	3	3	2	1
歯科口腔外科	3	3	2	2	2	2
研修医他	14	14	13	12	8	5
	131	131	121	120	111	97

4. 患者サービス向上に係る取り組み

①取り組み状況

サービス	時期	主 な 内 容
出前講座・医療講演 【継続】	4月～	健康づくりのためにより深い知識・情報を提供できるよう「生活習慣病シリーズ」や「女性の健康シリーズ」と題し、テーマに沿った演題を継続して発信した。 また、市内小学校9校（計13回）で児童を対象とした「いのちの授業」を行うほか、教員を対象とした「エピペン講習会」や「一次救命処置講習会」を行い、医療と教育現場の連携強化を図った。さらに市内中学校1校、高校1校にて生徒を対象とした「がん教育」を行い、正しい知識の普及や予防の重要性、がん患者に対する理解促進を図った。
第4回 和泉の地域医療を考える シンポジウム 【継続】	10月	令和5年10月29日（日）に「“薬”からみえる地域医療～地域包括ケアシステムにおける多職種連携による在宅高齢者の服薬支援」をテーマに、和泉市内の医療、介護、行政関係者交え講演会並びに意見交換会（シンポジウム）を開催した。 内容としては、在宅高齢者の服薬における現状を共有し、「かかりつけ薬局・薬剤師」の役割や重要性、また、多職種連携を図るための情報ツールや実際の取り組みを紹介。その他、服薬支援を含む「日常生活支援」には市民への互助・共助の理解促進が必要不可欠であり、医療介護専門職のみならず地域全体で取り組むべき課題であることを認識する機会となった。
災害時医療訓練 【継続】	11月	平日午前5時、南海トラフ地震（和泉市 震度7）想定で、令和5年11月14日（火）に災害訓練を実施。73人の職員が参加し、限られた職員数での初期対応、衛星電話・安否確認システムを用いて職員参集及び職員配置、災害対策本部の立ち上げ、EMISへの入力、院内外の被害状況把握、救急外来の運営についての訓練を行った。

②提案ポストへの投函件数

(単位:件)

区 分	令和5年度	令和4年度	主な内容例
総 件 数	165	178	
お 礼	46	37	■入院して、毎日、先生方・看護師・その他のスタッフが大変優しく親切で皆様にお世話になった。 ■救急でお世話になった。先生に、どんな質問をしても、快く答えてくれて安心できた。 ■尿バルーンが詰まって交換していただいた。早く、丁寧に対応していただき、感謝。父も感謝の言葉を頻りに言っていた。
苦情・要望等	119	141	
設 備	30	35	■カフェコーナー近くのゴミ箱ですが、燃えるゴミが満杯で入れるのに困る。もう一つ、燃えるゴミ箱を置いて欲しい。 ⇒ゴミ箱を増設。 ■予約票や受付票に30番等と書いてある箇所に階数も表示して欲しい。 ⇒フォントを大きく変更し、階数も表示するよう対応。 ■トイレのファイル置ききの板の角に頭をぶつけて怪我をした。 ⇒ファイル置ききの板を設置している全てのトイレに、コーナガード(コーナークッション)を取り付けた。
接 遇	41	47	■忙しいとは思いますが、もう少し丁寧に接して欲しい。一部の方は話し方が強く、いつも怒っている感じがする。 ⇒患者さんの立場に立った対応が出来るよう、周知及び指導した。 ■病院に不慣れな人を見掛けたら声掛けしていただき、気持ち良く、案内してあげて欲しい。 ⇒思いやりの心を忘れない対応を心掛けるよう周知した。 ■受付の態度が悪く、気分が悪くなった。 ⇒該当部署以外も含め、全職員への周知及び指導した。
その他	48	59	■玄関前に、車を止めさせないで欲しい。事情は色々あるかもしれないが、ルールは守るよう、取り締まって欲しい。 ⇒雨天時や連休明け等は、特に混雑し、駐車場も満車に近い状態となることが多い。警備担当者に、正面玄関前付近に停車している車を見かけた際は、移動・誘導するよう声掛け等をするよう対応した。 ■面会時間の幅を広げて欲しい。例えば、月・水・金は、14時～17時迄、火・木は、14時～19時迄など。 ⇒今後のコロナの感染状況等を鑑みて、検討する。

5. 経営健全化に係る指標

①損益計算書(4月～12月)

(単位:千円)

科 目	令和5年度 (a)	令和4年度 (b)	前年度比 (a)-(b)	増減率 %
医業収益 (A)	11,805,342	11,325,234	480,108	4.2
入院収益	6,860,974	6,523,905	337,069	5.2
外来収益	4,742,099	4,530,567	211,532	4.7
その他医業収益	202,269	270,762	▲ 68,493	▲ 25.3
うち室料差額収益	104,548	99,954	4,594	4.6
うち文書料・その他	233,090	268,411	▲ 35,321	▲ 13.2
うち保険等査定減	▲ 135,369	▲ 97,603	▲ 37,766	38.7
医業費用 (B)	10,220,390	9,561,036	659,354	6.9
給与費	4,889,098	4,715,214	173,884	3.7
材料費	4,206,739	3,660,802	545,937	14.9
委託費	454,581	459,003	▲ 4,422	▲ 1.0
経費	291,878	335,610	▲ 43,732	▲ 13.0
設備関係費	355,201	379,896	▲ 24,695	▲ 6.5
研究研修費	22,893	10,511	12,382	117.8
医業損益 (A)-(B)	1,584,952	1,764,198	▲ 179,246	▲ 10.2
医業外収益 (C)	359,055	281,215	77,840	27.7
うち運営費補助金収益	185,308	89,705	95,603	106.6
うちその他医業外収益	173,747	191,510	▲ 17,763	▲ 9.3
医業外費用 (D)	209,802	446,815	▲ 237,013	▲ 53.0
経常損益 ((A)+(C))-((B)+(D))	1,734,205	1,598,598	135,607	8.5
臨時収益 (E)	0	0	0	-
臨時費用 (F)	278,386	13,223	265,163	-
税引前利益 ((A)+(C)+(E))-((B)+(D)+(F))	1,455,819	1,585,375	▲ 129,556	▲ 8.2
医業収支比率 (A)÷(B)×100	115.5	118.5	▲ 3.0	
経常収支比率 ((A)+(C))÷((B)+(D))×100	116.6	116.0	0.6	
給与費率 (給与費)÷(A)×100	41.4	41.6	▲ 0.2	
材料費率 (材料費)÷(A)×100	35.6	32.3	3.3	
経常収支比率 新改革プラン目標値(R5)	109.0			

(うち医業費用明細) (4月～12月)

(単位:千円、%)

科 目	令和5年度		令和4年度		前年度比 (a)-(b)	増減率 %
	(a)	構成比 (%)	(b)	構成比 (%)		
医業費用	10,220,390	100.00	9,561,036	100.00	659,354	6.9
給与費	4,889,098	47.84	4,715,214	49.32	173,884	3.7
うち常勤職員給与	2,909,341	28.47	2,834,201	29.64	75,140	2.7
うち非常勤職員給与	679,495	6.65	614,705	6.43	64,790	10.5
うち法定福利費	536,636	5.25	502,466	5.26	34,170	6.8
うち賞与	681,069	6.66	657,941	6.88	23,128	3.5
材料費	4,206,739	41.16	3,660,802	38.29	545,937	14.9
うち医薬品費	2,986,137	29.22	2,511,204	26.26	474,933	18.9
うち医療消耗品費	768,926	7.52	703,886	7.36	65,040	9.2
うち検査材料費	270,618	2.65	286,161	2.99	▲ 15,543	▲ 5.4
委託費	454,581	4.45	459,003	4.80	▲ 4,422	▲ 1.0
うち検査委託費	104,297	1.02	103,985	1.09	312	0.3
うち給食委託費	50,933	0.50	50,933	0.53	0	0.0
うち医事委託費	8,072	0.08	8,034	0.08	38	0.5
うち清掃委託費	50,144	0.49	50,126	0.52	18	0.0
うち警備委託費	18,360	0.18	18,362	0.19	▲ 2	▲ 0.0
うち労務委託費	24,534	0.24	26,535	0.28	▲ 2,001	▲ 7.5
うち事務委託費	42,006	0.41	49,259	0.52	▲ 7,253	▲ 14.7
経費	291,878	2.86	335,610	3.51	▲ 43,732	▲ 13.0
うち消耗品費	14,989	0.15	13,052	0.14	1,937	14.8
うち事務用品費	13,871	0.14	15,944	0.17	▲ 2,073	▲ 13.0
うち光熱水道費	109,014	1.07	124,991	1.31	▲ 15,977	▲ 12.8
うち広告宣伝費	5,729	0.06	6,591	0.07	▲ 862	▲ 13.1
うち募集費	8,516	0.08	9,061	0.09	▲ 545	▲ 6.0
うち保険料	9,844	0.10	9,835	0.10	9	0.1
うち寄付金	17,096	0.17	48,450	0.51	▲ 31,354	▲ 64.7
うち支払手数料	37,297	0.36	34,979	0.37	2,318	6.6
設備関係費	355,201	3.48	379,896	3.97	▲ 24,695	▲ 6.5
うち医療機器等リース・レンタル料	63,275	0.62	70,480	0.74	▲ 7,205	▲ 10.2
うち減価償却費	44,349	0.43	44,528	0.47	▲ 179	▲ 0.4
うち修繕費	36,985	0.36	35,914	0.38	1,071	3.0
うち機器保守料	204,290	2.00	191,205	2.00	13,085	6.8
研究研修費	22,893	0.22	10,511	0.11	12,382	117.8

②貸借対照表

(単位:千円)

科 目	R5.12.31現在(A)	R4.12.31現在(B)	増減(A)-(B)
【流動資産】	【 12,355,881 】	【 10,724,111 】	【 1,631,770 】
現金預金	66,381	8,163	58,218
医業未収入金	2,573,204	2,779,718	▲ 206,514
未収金	232,768	405,332	▲ 172,564
薬品	112,814	100,931	11,883
診療材料	25,457	37,949	▲ 12,492
その他貯蔵品	1,987	1,899	88
前払費用	97,437	73,567	23,870
仮払消費税	552,837	509,640	43,197
貸倒引当金	▲ 8,096	▲ 6,738	▲ 1,358
特定施設間通過	43,241	0	43,241
大阪本部勘定	8,561,998	6,806,671	1,755,327
仮払金	5,393	6,264	▲ 871
その他流動資産	90,459	715	89,744
【固定資産】	【 272,490 】	【 261,996 】	【 10,494 】
(有形固定資産)	(252,877)	(238,458)	(14,419)
建物	117,356	128,524	▲ 11,168
構築物	10,724	14,046	▲ 3,322
医療機器	70,209	80,595	▲ 10,386
その他器械備品	13,818	15,293	▲ 1,475
建設仮勘定	40,770	0	40,770
(無形固定資産)	(13,276)	(15,636)	(▲ 2,360)
他無形固定資産	13,276	15,636	▲ 2,360
(投資他資産)	(6,338)	(7,902)	(▲ 1,564)
長期貸付金	1,823	3,724	▲ 1,901
その他	4,515	4,178	337
【繰延資産】	【 12,128 】	【 13,147 】	【 ▲ 1,019 】
繰延消費税	12,128	13,147	▲ 1,019
資 産 合 計	12,640,500	10,999,254	1,641,246
【流動負債】	【 2,307,298 】	【 2,713,305 】	【 ▲ 406,007 】
買掛金	1,481,895	1,315,969	165,926
未払費用	74,027	56,134	17,893
未払給与	127,825	119,894	7,931
未払金	237,199	485,381	▲ 248,182
預り金	121,537	127,866	▲ 6,329
前受収益	27,461	35	27,426
仮受金	803	501,358	▲ 500,555
仮受消費税	54,117	55,693	▲ 1,576
賞与引当金	182,434	50,975	131,459
【固定負債】	【 402,852 】	【 359,309 】	【 43,543 】
退職給付引当金	402,752	359,209	43,543
その他固定負債	100	100	0
負債の部 計	2,710,150	3,072,614	▲ 362,464
【積立金】	【 9,930,349 】	【 7,926,640 】	【 2,003,709 】
繰越利益積立金	9,930,349	7,926,640	2,003,709
(うち当期純利益)	1,455,820	1,585,376	▲ 129,556
純資産の部 計	9,930,349	7,926,640	2,003,709
負 債 純 資 産 合 計	12,640,499	10,999,254	1,641,245

令和5年度 進行管理(PDCA)チェックシート

兼経営評価シート(4月～12月)

評価対象	NO	評価項目	第17回 R5 4-12月	
			自己評価	市評価
運営 (基本的事項)	1	施設利用者数の状況について	10	10
	2	収支計画の達成状況について	10	10
医療サービス	3	必要なスタッフ(医師・看護師等)の確保と人材育成について	9	9
	4	救急医療体制の整備について	7	8
	5	地域医療機関との連携強化について	9	9
	6	高度・専門医療について	8	8
施設利用 サービス	7	待ち時間について	7	7
	8	職員の接遇について	7	7
危機管理	9	災害時医療の体制整備について	8	8
利用者の評価	10	提案ポストや患者アンケート等の意見の対応について	8	8
合計点数			83	84

評点の考え方	点数
優れている	9～10点
できている	7～8点
概ねできている	4～6点
やや劣っている	1～3点
劣っている	0点

評価項目	1	施設利用者数の状況について																			
評 価	評 価	報告日	自己評価	市の評価	委員会																
	令和5年度(4-12月)	R6.3.26	10	10																	
	令和4年度(総括)	R5.8.30	10	10	10																
P(プラン) 令和5年度 事業計画	令和5年度(4～3月) ・1日あたり入院患者数 292人(退院患者含む) (病床稼働率 95.0%) ・1日あたり外来患者数 1,008人																				
D(実施状況)	<診療実績> <table><tr><td>年度</td><td>R5実績 (4-12月)</td><td>R5計画 (4-3月)</td><td>R4 (4-12月)</td></tr><tr><td>①1日あたり入院患者数</td><td>316人</td><td>292人</td><td>309人</td></tr><tr><td>(病床稼働率)</td><td>(103.1%)</td><td>(95.0%)</td><td>(100.8%)</td></tr><tr><td>②1日あたり外来患者数</td><td>1,065人</td><td>1,008人</td><td>1,062人</td></tr></table>					年度	R5実績 (4-12月)	R5計画 (4-3月)	R4 (4-12月)	①1日あたり入院患者数	316人	292人	309人	(病床稼働率)	(103.1%)	(95.0%)	(100.8%)	②1日あたり外来患者数	1,065人	1,008人	1,062人
年度	R5実績 (4-12月)	R5計画 (4-3月)	R4 (4-12月)																		
①1日あたり入院患者数	316人	292人	309人																		
(病床稼働率)	(103.1%)	(95.0%)	(100.8%)																		
②1日あたり外来患者数	1,065人	1,008人	1,062人																		
C(自己評価の理由)	病床稼働率は100%を超えている数字となっている。 外来についても、1日平均1,065人と順調な推移である。																				
A(今後の取り組み)	病棟は満床の状態が続いているため、平均在院日数の短縮を工夫し、より多くの患者様に当センターを利用いただけるよう体制を整備する。																				
市のコメント	入院・外来患者数ともに非常に好調である。 引き続き、現状の患者数を維持できるよう努められたい。																				

評価項目	2	収支計画の達成状況について																											
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会																								
	令和5年度(4-12月)	R6.3.26	10	10																									
	令和4年度(総括)	R5.8.30	10	10	10																								
P(プラン) 令和5年度 事業計画	令和5年度 収支計画(4-3月) 経常収支比率109.0%																												
D(実施状況)	<実績> 前年度と比較し、入院・外来患者数、診療単価ともに増加したことから、経常収支比率は116.6%となり、計画値より上回った。 <診療実績(4月～12月)> <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R5計画(4-3月)</td><td>R4</td></tr><tr><td>①経常収支比率</td><td>116.6%</td><td>109.0%</td><td>116.0%</td></tr><tr><td>②入院診療単価</td><td>78,847円</td><td>73,000円</td><td>76,662円</td></tr><tr><td>③外来診療単価</td><td>24,140円</td><td>23,000円</td><td>24,073円</td></tr><tr><td>④給与費比率</td><td>41.4%</td><td></td><td>41.6%</td></tr><tr><td>⑤材料費比率</td><td>35.6%</td><td></td><td>32.3%</td></tr></table>						R5	R5計画(4-3月)	R4	①経常収支比率	116.6%	109.0%	116.0%	②入院診療単価	78,847円	73,000円	76,662円	③外来診療単価	24,140円	23,000円	24,073円	④給与費比率	41.4%		41.6%	⑤材料費比率	35.6%		32.3%
		R5	R5計画(4-3月)	R4																									
	①経常収支比率	116.6%	109.0%	116.0%																									
	②入院診療単価	78,847円	73,000円	76,662円																									
	③外来診療単価	24,140円	23,000円	24,073円																									
	④給与費比率	41.4%		41.6%																									
	⑤材料費比率	35.6%		32.3%																									
C(自己評価の理由)	入院患者・外来患者の増による医業収益の増等から、前年度同様、健全経営を実施できている。																												
A(今後の取り組み)	救急受入れ強化や、在院日数の短縮により、さらなる効率化を目指したい。																												
市のコメント	入院・外来の利用状況に比例して、診療単価も増加し良好な収支状況である。引き続き、安定的な経営基盤の確立に努められたい。																												

評価項目	3	必要なスタッフ(医師・看護師等)の確保と人材育成について																			
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会																
	令和5年度(4-12月)	R6.3.26	9	9																	
	令和4年度(総括)	R5.8.30	9	9	9																
P(プラン) 令和5年度 事業計画	基本的な医療機能 ①診療機能の向上 ・令和5年4月から常勤医師を131名に増員(前年度比10名増員)																				
D(実施状況)	＜職員数の状況 常勤換算＞(単位:人) <table><tr><td></td><td>R5.12</td><td>R5.4</td><td>増減</td></tr><tr><td>①医師</td><td>149.32</td><td>147.59</td><td>1.73</td></tr><tr><td>②看護部</td><td>388.64</td><td>397.84</td><td>▲ 9.20</td></tr><tr><td>③医療技術</td><td>154.53</td><td>157.53</td><td>▲ 3.00</td></tr></table>						R5.12	R5.4	増減	①医師	149.32	147.59	1.73	②看護部	388.64	397.84	▲ 9.20	③医療技術	154.53	157.53	▲ 3.00
		R5.12	R5.4	増減																	
	①医師	149.32	147.59	1.73																	
	②看護部	388.64	397.84	▲ 9.20																	
③医療技術	154.53	157.53	▲ 3.00																		
	＜研修の状況＞ <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R4</td><td>増減</td></tr><tr><td>回数</td><td>9</td><td>8</td><td>1</td></tr><tr><td>R5研修内容</td><td colspan="3">・ 医療安全研修 ・ 院内感染対策研修 ・ 個人情報研修</td></tr></table>						R5	R4	増減	回数	9	8	1	R5研修内容	・ 医療安全研修 ・ 院内感染対策研修 ・ 個人情報研修						
	R5	R4	増減																		
回数	9	8	1																		
R5研修内容	・ 医療安全研修 ・ 院内感染対策研修 ・ 個人情報研修																				
C(自己評価の理由)	前年度に引き続き、医師等のスタッフ増員を図ることができた。																				
A(今後の取り組み)	現在、非常勤医の対応となっている診療科の常勤化を図っていく。 令和4年度には常勤の救急専門医を1名確保できたが、引き続き、救急医療体制の強化に努めていく。																				
市のコメント	医師の増員(常勤の救急専門医の確保)や継続的な研修による人材育成の体制強化などはできているが、常勤の脳神経外科医の確保ができていないので、引き続き、確保に向けて取り組んでいただきたい。																				

評価項目	4	救急医療体制の整備について																											
評 価	評 価	報告日	自己評価	市の評価	委員会																								
	令和5年度(4-12月)	R6.3.26	7	8																									
	令和4年度(総括)	R5.8.30	7	7	7																								
P(プラン) 令和5年度 事業計画	救急医療(政策的医療) ・市内の他の救急告示病院と協力しながら、市外搬送件数の減少をめざす。																												
D(実施状況)	＜救急医療実施日＞ ○内科系・外科系 H30.4より実施(終日) ○小児科 泉州医療圏内で輪番制で実施 実施日:毎週火曜日、第2、4、5土曜日																												
	＜救急医療(4-12月)＞ (単位:人) <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R4</td></tr><tr><td>救急医療</td><td>10,345</td><td>10,929</td></tr><tr><td>うち救急搬送</td><td>2,884</td><td>2,718</td></tr></table>						R5	R4	救急医療	10,345	10,929	うち救急搬送	2,884	2,718															
		R5	R4																										
	救急医療	10,345	10,929																										
うち救急搬送	2,884	2,718																											
＜市消防本部救急搬送(4-12月)＞ 搬送率目標28.0% (単位:人、%) <table><tr><td></td><td>R5</td><td>搬送率</td><td>R4</td><td>搬送率</td></tr><tr><td>総合医療センター</td><td>1,834</td><td>23.6%</td><td>1,666</td><td>22.8%</td></tr><tr><td>市内民間病院</td><td>2,933</td><td>37.8%</td><td>2,924</td><td>40.0%</td></tr><tr><td>市外医療機関</td><td>2,994</td><td>38.6%</td><td>2,720</td><td>37.2%</td></tr><tr><td>合計</td><td>7,761</td><td></td><td>7,310</td><td></td></tr></table>						R5	搬送率	R4	搬送率	総合医療センター	1,834	23.6%	1,666	22.8%	市内民間病院	2,933	37.8%	2,924	40.0%	市外医療機関	2,994	38.6%	2,720	37.2%	合計	7,761		7,310	
	R5	搬送率	R4	搬送率																									
総合医療センター	1,834	23.6%	1,666	22.8%																									
市内民間病院	2,933	37.8%	2,924	40.0%																									
市外医療機関	2,994	38.6%	2,720	37.2%																									
合計	7,761		7,310																										
C(自己評価の理由)	昨年度より救急搬送受入件数は増加しているが、市外搬送件数も多い状況である。さらに医師確保を含め受入件数を増加できるよう努める。																												
A(今後の取り組み)	令和4年度から常勤の救急専門医が確保できたことから、更なる救急体制の充実を目指す。																												
市のコメント	病床稼働率が高い反面、緊急入院の受入余地が少ない状況は理解できるが、市外搬送率が減少していない状況を改善するため、今後も救急受入件数を拡大し、市外搬送の減少に取り組まれない。 なお、R4年度に救急専門医を確保したことは評価する。																												

評価項目	5	地域医療機関との連携強化について												
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会									
	令和5年度(4-12月)	R6.3.26	9	9										
	令和4年度(総括)	R5.8.30	9	9	9									
P(プラン) 令和5年度 事業計画	基本的な医療機能 ①地域医療機関との連携 ・紹介患者の受け入れ、逆紹介に努め地域医療の向上に貢献します。													
D(実施状況)	<取り組み> - 令和4年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防のため感染対策を行い、地域の医療機関との連携会を開催した。 - また、10月に「和泉の地域医療を考えるシンポジウム」を開催した。 - 地域の医療機関への情報提供を継続実施。 ○活動実績 連携会件数 1 回 シンポジウム実施回数 1 件 地域医療機関向研修件数 10 回 地域医療機関従事者研修参加人数 180 人 <紹介率・逆紹介率> <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R4</td></tr><tr><td>紹介率</td><td>65.5%</td><td>72.5%</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>85.1%</td><td>91.0%</td></tr></table>						R5	R4	紹介率	65.5%	72.5%	逆紹介率	85.1%	91.0%
	R5	R4												
紹介率	65.5%	72.5%												
逆紹介率	85.1%	91.0%												
C(自己評価の理由)	紹介率・逆紹介率は前年度よりも減少したが、件数は増加した。 【R4】紹介:13,237件、逆紹介:10,415件 【R5】紹介:13,759件、逆紹介:10,752件													
A(今後の取り組み)	引き続き、地域医療機関への訪問や意見交換会の開催など、病病・病診連携を強化し、紹介率、逆紹介率向上を目指す。													
市のコメント	令和4年3月に承認を受けた、地域医療支援病院に相応しい病院として、引き続き、市内医療機関等とより一層の病病・病診連携の強化に努め、率向上に取り組まれたいたい。													

評価項目	6	高度・専門医療について																		
評 価	評 価	報告日	自己評価	市の評価	委員会															
	令和5年度(4-12月)	R6.3.26	8	8																
	令和4年度(総括)	R5.8.30	8	8	9															
P(プラン) 令和5年度 事業計画	急性期病院としての機能強化と充実 ①手術件数 ②地域がん診療連携拠点病院																			
D(実施状況)	＜高度・専門医療(各年度4-12月)＞ (単位:件) <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R4</td></tr><tr><td>手術数</td><td>2,429</td><td>2,114</td></tr><tr><td>(うちダヴィンチ)</td><td>155</td><td>107</td></tr><tr><td>放射線治療件数</td><td>4,504</td><td>5,386</td></tr><tr><td>化学療法実施件数</td><td>5,938</td><td>4,678</td></tr></table>						R5	R4	手術数	2,429	2,114	(うちダヴィンチ)	155	107	放射線治療件数	4,504	5,386	化学療法実施件数	5,938	4,678
	R5	R4																		
手術数	2,429	2,114																		
(うちダヴィンチ)	155	107																		
放射線治療件数	4,504	5,386																		
化学療法実施件数	5,938	4,678																		
C(自己評価の理由)	放射線治療件数は減少しているが、手術数、化学療法実施件数は昨年度より増加した。																			
A(今後の取り組み)	令和4年3月に地域医療支援病院の承認を受けていることから、地域の医療機関と更なる連携を強化し、手術症例の紹介を受けるよう努める。																			
市のコメント	地域がん診療連携拠点病院として、着実にがん治療、がんゲノム研究に取り組み、高度専門医療にも対応している。今後も増築棟の建設によりがんセンターも拡充するので、引き続き、市民が安心して高度な医療が受けることができるよう、市の中核病院としての役割を果たすよう努められたい。																			

評価項目	7	待ち時間について											
評 価	評 価	報告日	自己評価	市の評価	委員会								
	令和5年度(4-12月)	R6.3.26	7	7									
	令和4年度(総括)	R5.8.30	8	8	8								
P(プラン) 令和5年度 事業計画	5 患者サービス向上 ①提案ポストや患者アンケート、待ち時間調査から利用者の意見収集を行い、サービス向上に努めます。												
D(実施状況)	提案ポストで待ち時間に対する苦情が寄せられた。 ＜待ち時間苦情件数(4-12月)＞ (単位:件) <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R4</td><td>増減</td></tr><tr><td>待ち時間苦情件数</td><td>5</td><td>3</td><td>2</td></tr></table>						R5	R4	増減	待ち時間苦情件数	5	3	2
	R5	R4	増減										
待ち時間苦情件数	5	3	2										
C(自己評価の理由)	限られた環境での診療であり、曜日によっては待ち時間が多く発生している。												
A(今後の取り組み)	スマートフォンアプリと連動した呼び出しシステム「HOSPA」のバージョンアップなどを行い、引き続き、提案ポストの内容や待ち時間分析を行い待ち時間を短縮できるよう努める。												
市のコメント	待ち時間に関する苦情が引き続き生じている。「HOSPA」も導入したことから、待ち時間を減少できるよう工夫し、満足度のさらなる向上につなげられたい。												

評価項目	8	職員の接遇について															
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会												
	令和5年度(4-12月)	R6.3.26	7	7													
	令和4年度(総括)	R5.8.30	7	7	7												
P(プラン) 令和5年度 事業計画	5 患者サービス向上 ③職員の接遇について、研修や個別指導を行います。																
D(実施状況)	患者アンケート調査による意見の集約を行っている。 提案ポストにしばしば接遇に関する苦情が寄せられており、院内委員会で検討を行った結果、指導、教育の徹底を継続し、接遇の向上を図っている。 <接遇研修の状況> (単位:件) <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R4</td><td>増減</td></tr><tr><td>回数</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>R5研修内容</td><td colspan="3">・話し方で人は変わる(言葉遣い・敬語・丁寧語)認知症、せん妄のある患者に対する接遇 ・大部屋での携帯電話の使用について</td></tr></table>						R5	R4	増減	回数	2	1	1	R5研修内容	・話し方で人は変わる(言葉遣い・敬語・丁寧語)認知症、せん妄のある患者に対する接遇 ・大部屋での携帯電話の使用について		
	R5	R4	増減														
回数	2	1	1														
R5研修内容	・話し方で人は変わる(言葉遣い・敬語・丁寧語)認知症、せん妄のある患者に対する接遇 ・大部屋での携帯電話の使用について																
C(自己評価の理由)	接遇に関する指摘は、院内委員会において、情報共有を行い、院内全体の取り組みとして改善を図っている。																
A(今後の取り組み)	引き続き、院内委員会による研修をはじめとし、指導、教育を継続していく。																
市のコメント	市担当部局にも未だ職員の接遇に関する苦情が寄せられている。職員への個別指導や苦情からの改善策の吸い上げにより患者サービスを向上させ、苦情の減少に努められたい。																

評価項目	9	災害時医療の体制整備について											
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会								
	令和5年度(4-12月)	R6.3.26	8	8									
	令和4年度(総括)	R5.8.30	8	8	8								
P(プラン) 令和5年度 事業計画	3 政策的医療 ③災害時医療 和泉市の地域防災計画に沿った体制により、職員研修、訓練を実施、災害発生時には傷病者を受け入れ、状況に応じて被災地への医師・看護師派遣を実施します。												
D(実施状況)	<table><tr><td>災害訓練日時</td><td>令和5年11月14日(火)</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>73人</td></tr><tr><td>参加部署</td><td>医療センター全部署</td></tr><tr><td>訓練内容</td><td>・ 平日午前5時、南海トラフ地震(和泉市 震度7)想定 ・ 衛星電話、安否確認システムを用いて職員参集及び職員配置、トリアージ、診療の机上訓練</td></tr></table>					災害訓練日時	令和5年11月14日(火)	参加人数	73人	参加部署	医療センター全部署	訓練内容	・ 平日午前5時、南海トラフ地震(和泉市 震度7)想定 ・ 衛星電話、安否確認システムを用いて職員参集及び職員配置、トリアージ、診療の机上訓練
災害訓練日時	令和5年11月14日(火)												
参加人数	73人												
参加部署	医療センター全部署												
訓練内容	・ 平日午前5時、南海トラフ地震(和泉市 震度7)想定 ・ 衛星電話、安否確認システムを用いて職員参集及び職員配置、トリアージ、診療の机上訓練												
C(自己評価の理由)	関係機関との連携を図り、災害時医療の体制づくりを図っている。												
A(今後の取り組み)	今後は府や市(保健所)と連携した災害時医療訓練を実施し、課題検討に努める。												
市のコメント	政策的医療のひとつでもある災害時医療にも取り組んでいる。引き続き、府や市などの関係機関とも日頃から連携を図り、いざというとき迅速に対応できる体制構築に努められたい。												

評価項目	10	提案ポストや患者アンケート等の意見の対応について															
評 価	評 価	報告日	自己評価	市の評価	委員会												
	令和5年度(4-12月)	R6.3.26	8	8													
	令和4年度(総括)	R5.8.30	8	8	8												
P(プラン) 令和5年度 事業計画	5 患者サービス向上 ①提案ポストや患者アンケート、待ち時間調査から利用者の意見収集を行い、サービス向上に努めます。																
D(実施状況)	入院患者を対象とした簡易なアンケートを実施。提案ポストは意見を2日に1度回収し、病院長が迅速に確認できるようにしている。 ＜提案ポスト・入院アンケート件数(各年度4-12月)＞ (単位:件) <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R4</td><td>増減</td></tr><tr><td>提案ポスト投函件数</td><td>165</td><td>178</td><td>-13</td></tr><tr><td>入院アンケート回収件数</td><td>1,785</td><td>1,785</td><td>0</td></tr></table>						R5	R4	増減	提案ポスト投函件数	165	178	-13	入院アンケート回収件数	1,785	1,785	0
	R5	R4	増減														
提案ポスト投函件数	165	178	-13														
入院アンケート回収件数	1,785	1,785	0														
C(自己評価の理由)	提案ポスト及びアンケート内容については、確認、反映し、サービス向上につなげた。																
A(今後の取り組み)	提案ポスト等の内容を委員会で検討し、院内に周知しサービス向上につなげていく。																
市のコメント	提案ポスト等の要望について、適切な進行管理、迅速な改善対応を行っている。今後も提案ポスト等に限らず、多様な方法で意見集約を行い、サービスの向上につなげられたい。																

総合評価 令和5年度 (4月～12月)	自己評価	83	合計評価点(83点 / 100点)
	市の評価	84	合計評価点(84点 / 100点)
	委員会の評価		

令和 6 年度 和泉市立総合医療センター 事業計画書（案）

令和 5 年度は、前年度に続き医療スタッフの増員に努めました。また JCEP（卒後臨床研修評価機構）の審査を受けることで、臨床研修の質の向上にも取り組みました。

病院診療としては、課題としていた専門的な診療に努め手術件数を増加することができました。

令和 6 年度においては、予定されている増改築工事が本格的に開始されます。また更なる高度医療の提供を目的に 2 台目となる内視鏡手術支援ロボット（ダヴィンチ）を導入します。更に地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院に加えて、大阪府の難病医療連携拠点病院にも指定されたことから、幅広い診療科で地域医療に貢献してまいります。

1 基本方針

市民の生命と健康を守る公立病院としての使命を果たすため、次に掲げる基本方針に沿って事業運営を行います。

- ① 市民の皆さんが安心できる、患者さん本位の医療を実践するよう努めます。
- ② 患者さんの権利を尊重した思いやりのある医療人の育成に努めます。
- ③ 地域の中核病院として、質の高い医療を提供できるように努めるとともに、地域医療機関との連携を図ります。
- ④ 市民の皆さんが安心して生活できるよう、救急医療の充実に努めます。

2 基本的な医療機能

① 外来診療科目 (35 科) 令和 5 年 4 月 1 日時点

内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、腫瘍内科、外科、整形外科、脳神経外科、小児科、泌尿器科、眼科、婦人科、耳鼻いんこう科、皮膚科、放射線科、精神科、血液内科、内分泌・糖尿病内科、腎臓・透析内科、脳神経内科、緩和ケア内科、肝臓・胆のう・膵臓内科、心臓血管外科、乳腺外科、呼吸器外科、形成外科、消化器外科、リウマチ内科、救急科、リハビリテーション科、麻酔科、病理診断科、歯科口腔外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、乳腺内科

診察日・受付時間

診 察 日：月曜日～金曜日（祝日を除く）
土曜日診療の実施
年末年始休日 12/31～1/3
受付時間：8:00～11:30

② 病棟編成・看護基準

- ・ 稼動病床数 307 床（ICU8 床、急性期病床 275 床、緩和ケア 24 床）
- ・ 7 対 1 看護基準

③ 診療機能の向上

- ・ 診療体制の充実を図ります。（令和 6 年 4 月の常勤医師 137 名予定）
- ・ 国指定の地域がん診療連携拠点病院にふさわしい専門的ながん医療、地域連携協力体制、がん患者への相談支援及び情報提供を充実します。
- ・ 地域医療支援病院の医療連携活動の一環として、研修会等を実施し、高度医療機器の共同利用を行うなど地域医療の資質向上に貢献します。
- ・ 大阪公立大学医学部、近畿大学医学部との連携強化を図ります。
- ・ グループ病院である岸和田徳洲会病院を協力・支援病院とし、バックアップ体制を継続します。

④ 医療・介護連携の推進

- ・ 地域における医療・介護の関係機関が連携することにより、包括的かつ継続的な在宅医療・介護を提供することができるよう地域の専門職の相談窓口となり、基幹的な役割を果たします。

⑤ 健康増進の取り組み

- ・ 人間ドック・特定健診などの各種検診の充実を図り、市民の健康維持・疾患の早期発見に貢献します。
- ・ 医師等による医療講演会及び出前講座を行います。

⑥ 医師、看護師等の人材育成

- ・ 院内委員会による研修をはじめとし、指導・教育の充実を図ります。特に、看護師については、基礎教育に重点を置き、新たな教育プログラムを実施します。

3 政策的医療

① 救急医療

- ・ 市内の他の救急告示病院と協力しながら、市外搬送件数の減少を目指します。令和 4 年度から常勤の救急専門医 1 名を確保できたことから更なる救急体制の強化を図り、重篤な患者の対応については、引き続き、協力・支援病院の岸和田徳洲会病院（三次救急医療機関）と連携します。

② 小児医療

小児医療及び学童健診に協力をします。また、令和 4 年 10 月に地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪母子医療センターと「地域医療における住民の健康と小児から成人医療に関する連携協定」を締結したことから、さらに質の高い医療サービスの提供

に取り組めます。

③ 災害時医療

- 和泉市の地域防災計画に沿った体制により、職員研修・訓練を実施します。
- 災害発生時には傷病者等を受け入れ、状況に応じて被災地への医師・看護師派遣を実施します。

4 建物、設備、器具等の維持管理

建物及び設備、器具等の機能と環境を良好に維持するとともに、施設修繕や医療機器等更新については必要性、緊急性を十分に見極め実施します。

5 患者サービス向上

- ① 提案ポストや患者アンケートによる待ち時間調査等から利用者の意見収集を行い、さらなる接遇改善に努めます。
- ② ホームページ、広報等の内容充実を行い、市立総合医療センターの効果的なPRを継続します。
- ③ 職員の接遇について、研修や個別指導を継続します。

6 和泉市立総合医療センター病院経営強化プランの策定

令和4年3月29日、総務省から現在の「新公立病院改革ガイドライン」の後継として、新たに「公立病院経営強化ガイドライン」が策定され、病院設置自治体に令和5年度までに「公立病院経営強化プラン」を策定するよう通知がありました。

これを受け、さらなる経営基盤の確立、安定した運営等を行っていくうえで、中核病院として必要な医療提供体制を確保するため、「公立病院経営強化ガイドライン」に基づき、「和泉市立総合医療センター病院経営強化プラン」（令和6～9年度）を策定しました。

(参考資料) 令和6年度収支計画

(単位：人、円)

		R6年度計画※3	R5年度見込み	増減 (A) - (B)	増減率
病床数 307		計画 (A)	計画 (B)	(C)	(C) ÷ (B) × 100
入院	1日平均患者数 ※1	292.9	288.6	4.3	1.5%
	1人1日当り診療額	90,005	86,234	3,771	4.4%
外来	1日平均患者数 ※2	742.4	719.3	23.1	3.2%
	1人1日当り診療額	24,170	24,287	▲ 116	▲ 0.5%

項 目 (単位：百万円)

入院収入計		9,624	9,110	514	5.6%
外来収入計		6,549	6,394	155	2.4%
診療収入合計		16,173	15,504	669	4.3%
医業収入合計	室料差額収入	144	138	6	4.1%
	文書料収入	29	27	2	6.4%
	その他収入	40	35	5	14.7%
	保険等調整増減	▲ 155	▲ 212	57	▲ 26.9%
医業費用合計		16,231	15,492	739	4.8%
医業原価合計	医薬品費	4,074	3,949	125	3.2%
	医療消耗品費	1,136	1,088	49	4.5%
	その他	868	824	44	5.3%
医療機器リース料		51	51	▲ 0	▲ 0.8%
医療機器減価償却費		32	34	▲ 2	▲ 6.0%
人件費合計	医師給与	1,700	1,509	190	12.6%
	その他	5,306	5,133	174	3.4%
水道光熱費		144	144	0	0.0%
保守衛生費	保守衛生費	11	11	▲ 0	▲ 3.0%
	その他	1,337	1,302	36	2.8%
医業経費合計		1,493	1,457	36	2.4%
医業費用合計		14,660	14,045	615	4.4%
医業利益		1,571	1,447	124	8.6%
減価償却費	減価償却費	398	395	4	1.0%
	その他費用計	398	395	4	1.0%
その他収益	その他収益	285	336	▲ 51	▲ 15.2%
	医業外収益合計	285	336	▲ 51	▲ 15.2%
その他費用	その他費用	30	29	1	3.0%
	医業外費用合計	30	29	1	3.0%
経常利益		1,427	1,359	68	5.0%
協力負担金		162	155	7	4.8%
税引前利益		1,265	1,204	61	5.1%

※1 年延入院患者数（退院日の患者を患者数に含める）÷年間日数

※2 年延外来患者数÷診療日数

※3 徳洲会グループ全体での計画調整により変更の可能性あり

和泉市立総合医療センター 経営強化プラン（令和 6～9 年度）



令和 6 年 3 月
和 泉 市

はじめに

和泉市立総合医療センター開設者
和泉市長 辻 宏康

私が市長に就任した平成 21 年当時、市直営の市立病院は、救急医療の停止や、経営の悪化、施設の老朽化といった大きな課題を抱えていました。これらを解決すべく病院の再生に取り組みましたが、現実のままならず、指定管理者制度の導入を決断したところ、幸いにも、徳洲会グループという日本一の医療グループにパートナーになっていただいたことで、再生のスタートを切ることができ、新病院建設事業に着手することができました。

平成 30 年 4 月に新病院として「和泉市立総合医療センター」を開設したことにより、24 時間 365 日の救急医療の再開を果たし、今や病床稼働率が 100%を超えるなど、府内の公立病院でも例を見ないような優良な病院になり、患者さまに選んでいただける病院となっています。

また、令和 3 年 3 月には国から「地域がん診療連携拠点病院」の指定、令和 4 年 3 月には大阪府から「地域医療支援病院」の承認も受けるなど、地域医療の資質向上に繋がっております。

私が市長に初当選した平成 21 年当時から抱いておりました、「かつて泉州一といわれた市立病院をもう一度再生したい」との思いが、こうして現実となっていることは本当にうれしく、胸が熱くなる思いです。

この度、令和 6 年度から令和 9 年度を対象期間に策定しました「和泉市立総合医療センター経営強化プラン」に基づき、和泉市立総合医療センター経営評価委員会の評価をいただきながら、さらなる市民の医療サービス向上に取り組むとともに、市民皆様の健康を守り、命を輝かせる宝石箱のような病院、泉州一の隆盛を誇った頃の市立病院を取り戻せるような病院づくりに取り組んでまいります。

【目 次】

経営強化プランの策定にあたり	1
I. 病院事業のこれまでの取組	
1. これまでの経過	2
2. 指定管理者制度導入以降の状況	2
(1) 運営状況	
(2) 地域がん診療連携拠点病院	
(3) 地域医療支援病院	
(4) 救急医療	
(5) 災害時医療・感染症対策	
(6) 医療機器の充実	
3. 経営強化プランにおける 6 つの視点の検証	8
(1) 役割・機能の最適化と連携の強化	
(2) 医師・看護師等の確保と働き方改革	
(3) 経営形態の見直し	
(4) 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組	
(5) 施設・設備の最適化	
(6) 経営の効率化等	
4. 公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証要請の対応	16
II. 新たな展開～具体的取組～	17
1. 医療環境の向上	
2. 経営強化プランの実施状況の点検、評価、公表	
○別紙 1 収支計画書（指定管理者）	18
○別紙 2 収支計画書（病院事業会計）	19

経営強化プランの策定にあたり

令和 3 年度、国において病院や経営主体の統合を主眼とした「新公立病院改革ガイドライン」の後継として、新たに病院間の役割分担と連携強化により持続可能な地域医療提供体制確保のため経営強化を主眼とした「公立病院経営強化ガイドライン」が策定され、病院設置自治体に令和 5 年度までに「公立病院経営強化プラン」を策定するよう通知があった。

この通知を受け、平成 30 年 4 月に新病院として開院した和泉市立総合医療センター（以下「当センター」という。）は、さらなる経営基盤の確立、安定した運営等を行っていくうえで、中核病院として必要な医療提供体制を確保するため、「公立病院経営強化ガイドライン」に基づき、開設者和泉市長と指定管理者医療法人徳洲会は「和泉市立総合医療センター病院経営強化プラン（令和 6～9 年度）」（以下「経営強化プラン」という。）を策定した。

当センターは、本経営強化プラン計画期間中において公設民営化の主眼であった 24 時間 365 日救急体制の充実、さらなる安全で質の高い医療を目指し、新興感染症の感染拡大時等に備えた感染症対策強化及び後期高齢者増加による今後見込まれる救急搬送者増加に対応する等の目的で増築棟を建設する。

また、本市は、附属機関である和泉市立総合医療センター経営評価委員会（以下「経営評価委員会」という。）において、今後も和泉市立病院新改革プランに代わって計画した本経営強化プランに基づく進行管理及び評価を頂き、歩みを止めずに当センターの病院改革に取り組んでいくものである。

なお、国等の動向、取巻く医療環境の変化により、必要に応じて計画を更新する場合がある。

I. 病院事業のこれまでの取組

1. これまでの経過

旧和泉市立病院（以下「旧病院」という。）は、昭和 38 年に病床数 60 床の「公立和泉病院分院」（泉大津市・和泉市病院組合）として開院した。その後、昭和 47 年に設置主体を組合から市に変更し、「和泉市立病院」として発足して以後、診療機能の充実を図るため、中央館の増築や、診療科の拡充、救急医療の実施などに取り組み、地域医療の中核を担ってきた。

平成 10 年頃から、当院においても、他の公立病院と同様、臨床研修医制度の改正による医師不足等によって経営状況が急激に悪化し、平成 19 年度には経常損失約 16 億円、不良債務（資金不足）約 20 億円を計上する経営危機に陥った。

このような中、平成 21 年 3 月に策定した「和泉市立病院経営健全化実施計画（公立病院改革プラン）」は、平成 20 年度から平成 27 年までを計画期間とし、平成 25 年度に経常収支の黒字化、平成 27 年度に不良債務の解消を目標に、がんセンターの開設等による収益増や、職員数の削減等による経費節減に取り組むという内容であった。

その後、「和泉市立病院経営健全化実施計画（公立病院改革プラン）」に基づき経営改善が進められたが、「救急医療の再開」、「慢性的な赤字体質」、「施設の老朽化」という病院運営の根幹とも言える 3 つの課題については解決の目途が立たなかった。

このことから、医療や経営等の専門家である外部委員からなる「和泉市立病院あり方検討委員会」を組織し、その答申を踏まえ市議会での審議を経て、当院を公設民営化（指定管理者制度の導入）することとし、事業者を公募のうえ、平成 26 年 4 月から指定管理者医療法人徳洲会による運営を開始した。

指定管理者による運営開始後は、救急医療の一部再開、一般会計からの赤字補てん補助金の解消により、慢性的な赤字体質からの脱却を図ることができた。もう一つの課題である施設の老朽化については、病院の経営及び市の財政状況は厳しく、建て替えは非常に困難を余儀なくされていたが、指定管理者制度を導入したことにより、民間のノウハウを活用することによる建設費用の抑制が見込まれたほか、指定管理者との間で、建設費用を折半することに合意できたことから、平成 28 年 4 月から新病院の建設に着手し、平成 30 年 3 月に完成、同年 4 月に当センターが開院した。

2. 指定管理者制度導入以降の状況

（1）運営状況

指定管理者制度導入前の平成 25 年度入院・外来患者数は 1 日平均入院が 160 人、外来が 520 人となっていたが、令和 4 年度には 1 日平均入院が 310 人（午前退院・午後入院含む）、外来が 1,058 人となり、指定管理者制度導入前と比較すると約 2 倍の数値となっている。

収支についても、平成 25 年度はマイナス約 21 億円となっていたが、令和 4 年度には約 21 億円と大幅な増益となった。また、常勤医師数についても、平成 25 年度は 50 人であったが、令和 4 年度は 121 人と大幅な増員となった。

○ 常勤医師数の推移（各年4月1日時点）（単位：人）

H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
50	45	47	48	54	82	97	111	120	121	131

○ 入院患者数（1日平均）の実績（単位：人）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
入院	160	166	201	218	230	299	309	295	309	310	—

※入院患者数は、午前退院・午後入院も各1カウントとしている。

○ 外来患者数（1日平均）の実績 ※午前退院・午後入院含む（単位：人）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
外来	520	483	508	534	559	850	970	936	1,030	1,058	—

○ 収支の推移（単位：百万円）

H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
▲2,114	▲335	▲207	▲4	40	1,154	818	2,217	2,553	2,172	—

○ 病床稼働率の実績（許可病床307床で算出）（単位：%）

H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
65.5	68.9	71.0	74.9	97.3	100.7	96.2	100.6	101.1	—

○ 診療単価の実績（単位：円）

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
入院	50,603	49,584	48,280	48,899	56,946	61,151	71,773	71,879	77,726	—
外来	11,380	14,016	13,938	13,657	16,447	19,047	21,223	22,286	24,172	—

○ 経常収支比率の実績（単位：%）

H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
93.7	96.6	99.9	100.7	112.8	107.3	118.4	119.4	117.5	—

(2) 地域がん診療連携拠点病院

旧病院時（平成 22 年度）にがんセンターを設置し、大阪府下の公立病院では初となる緩和ケア病棟を整備した。平成 23 年度からは大阪府指定のがん診療拠点病院になり、医療の特色のひとつとして取り組んできた。

平成 30 年 4 月 1 日に新病院として当センターが開院し、放射線治療装置トモセラピーの設置、緩和ケアや化学療法におけるチーム医療の推進、情報提供・相談体制の確立など、より充実したがん医療を提供できる体制となった。

また、令和 3 年 3 月、泉州二次医療圏では市立岸和田市民病院に続いて 2 番目、大阪府内では 17 番目となる地域がん診療連携拠点病院の国指定を受けた。

令和 3 年 4 月 1 日から 2 年間の指定（以降更新）で、医療圏域のがん患者を受入れ、肺がん、消化器がん、乳がん、婦人科がん等に対し、外科治療、放射線治療、化学療法を実施しており、当センターの緩和ケア病床 24 床は常時満床に近い稼働となっている。

令和 2 年 1 月から 12 月における当センター内がん登録数は 1,442 件、相談件数は 1,316 件となっている。また、令和 3 年 8 月にがんゲノム医療連携病院に指定され、がんゲノム医療を開始した。

厚生労働省が示す地域がん診療連携拠点病院については以下のとおりである。

[趣旨]

全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう、がん医療の均てん化を目指す。

[指定要件]

1. 診療体制（診療機能、従事者、医療施設）
2. 診療実績（患者登録数、悪性腫瘍手術件数、放射線治療等患者数）
3. 研修の実施体制
4. 情報の収集提供体制（がん相談支援センター、がん登録、情報提供・普及啓発）
5. 臨床研究及び調査研究
6. PDCA サイクルの確保
7. 医療に係る安全管理

(3) 地域医療支援病院

地域医療支援病院とは、平成 9 年 4 月の医療法改正で制度化された医療施設機能の体系化の一環で、主な役割は、地域完結型医療における中心的な役割を担うものとなっている。

地域の診療所等のかかりつけ医が初期対応を受け持ち、専門的治療や高度検査、入院治療、救急医療等を受け持つ地域の中核病院として当センターは、令和 4 年 3 月、地域医療支援病院の承認要件を満たし大阪府知事から承認を受けた。

地域の医療機関に MRI、CT など紹介により引き続き医療機器を利用いただいている。当センターにおいて検査・読影を行い、結果を素早く報告し、少しでも診療の一助になるよう日々努めている。また、地域の医療従事者に対する研修として、全身性エリテマトーデス、顕微鏡的多発血管炎の治療の考え方や、肺がん治療最新の進歩をはじめとして、令和 4 年度は研修会を 16 回開催し、延べ 293 人の地域の医療従事者が参加した。和泉の

地域医療を考えるシンポジウムも行った。

○ 紹介率、逆紹介率の推移

(単位：%)

年度	H30	R1	R2	R3	R4
紹介率	51.8	54.7	64.4	68.8	72.9
逆紹介率	45.6	68.5	84.9	88.6	91.7

※承認要件上の数値であり、公表上の数値とは異なる。

厚生労働省が示す地域医療支援病院については以下のとおりである。

[趣旨]

医療施設機能の体系化の一環として、患者に身近な地域で医療が提供されることが望ましいという観点から、紹介患者に対する医療提供、医療機器等の共同利用の実施等を通じて、第一線の地域医療を担うかかりつけ医、かかりつけ歯科医等を支援する能力を備え、地域医療の確保を図る病院として相応しい構造設備等を有する病院。

[役割]

- ・ 紹介患者に対する医療の提供（かかりつけ医等への患者の逆紹介も含む）
- ・ 医療機器の共同利用の実施
- ・ 救急医療の提供
- ・ 地域の医療従事者に対する研修の実施

[承認要件]

- ・ 開設者は、国、都道府県、市町村、社会医療法人、医療法人等であること。
- ・ 紹介患者中心の医療を提供していること。
 1. 紹介率が80%以上であること。
 2. 紹介率が65%以上であり、かつ、逆紹介率が40%以上であること。
 3. 紹介率が50%以上であり、かつ、逆紹介率が70%以上であること。
- ・ 救急医療を提供する能力を有すること。
- ・ 建物、設備、機器等を地域の医師等が利用できる体制を確保していること。
- ・ 地域医療従事者に対する研修を行っていること。
- ・ 200床以上の病床を有すること。
- ・ 医療法に規定する施設を有し、構造設備が要件に適合すること。

[患者、病院の利点]

- ・ 各医療機関の役割分担により、必要かつ良質な医療が身近に受けられる。
- ・ 事前予約による待ち時間が軽減される。
- ・ 診療情報の共有により検査の重複を回避でき、時間や費用の負担が軽減できる。
- ・ 地域医療支援病院と地域かかりつけ医との安心・安定した医療の支援ができる。
- ・ 入院加算が得られ、入院収益の増収により、病院経営の安定に繋がる。

(4) 救急医療

平成28年度から令和4年度における当センターの救急患者数及び和泉市消防本部救急搬送件数の推移は下表のとおりである。

当センターがオープンした平成 30 年 4 月から 24 時間 365 日体制で救急医療を実施しており、受入件数が大幅に増加したが、令和 2・3 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により受診控え等による救急搬送件数の減少に伴い、当センターにおいても受入件数が減少した。

今後も更なる救急体制強化に取り組み、救急患者の受入数を増やし、救急搬送受入率について改善を図り地域医療に貢献していく。

○ 救急患者数の推移

(単位：人)

年度		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
救急患者数		10,080	10,370	14,820	14,874	10,208	12,710	13,852
うち救急搬送者	小児科	410	417	447	454	252	335	530
	内科・外科系	1,506	1,564	3,079	3,103	2,553	2,545	3,068
	合計	1,916	1,981	3,526	3,557	2,805	2,880	3,598

○ 和泉市消防本部救急搬送件数の推移

(単位：件、%)

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
当センター	1,363 (16.5)	1,329 (15.7)	2,351 (26.3)	2,303 (25.7)	1,780 (23.8)	1,779 (21.4)	2,185 (22.5)
市内他病院	3,693 (44.6)	3,971 (47.0)	3,798 (42.4)	3,657 (40.8)	3,269 (43.6)	3,556 (42.9)	3,796 (39.0)
市外病院	3,222 (38.9)	3,151 (37.3)	2,804 (31.3)	3,004 (33.5)	2,438 (32.6)	2,964 (35.7)	3,748 (38.5)
合計	8,278 (100.0)	8,451 (100.0)	8,953 (100.0)	8,964 (100.0)	7,487 (100.0)	8,299 (100.0)	9,729 (100.0)

※和泉市消防本部 医療機関別搬送件数より

○ 和泉市消防本部からの救急患者受入率

(単位：%)

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
消防本部からの救急患者受入率	16.5	15.7	26.3	25.7	23.8	21.4	22.5

(5) 災害時医療・感染症対策

災害時、当センターは市地域防災計画等に基づき、重要な医療提供拠点である。平成 30 年 10 月に当センターは災害対応マニュアルを作成し、あらゆる災害に備え、関係機関と共同で年 1 回災害時医療訓練を実施している。また、医療提供体制の確認、受入可能状況の情報伝達、トリアージ、救急搬送等の訓練を通じ、共通認識を確認し、災害時に機能できるように備えている。

今般の新型コロナウイルス感染症の対応において、当センターは、診療・検査医療機関、軽症・中等症・重症患者の入院受入れ、また、新型コロナウイルスワクチンの集団接種会場と複数の機能を担い、地域の中核的な医療機関としての役割を可能な限り果たしてきた。

感染症対策については、「経済財政運営と改革の基本方針 2020」（令和 2 年 7 月 17 日閣議決定）では、感染症への対応の視点も含めて、質が高く効率的で持続可能な医療提供体制の整備を進めるため、可能な限り早期に工程の具体化を図るとされている。本来、感染症の治療については、法律による感染症の分類により対応すべき医療機関として感染症指定医療機関が決められていることから、当センターは、大阪府と新興感染症に備えた医療措置協定を締結し、第一種協定指定医療機関として指定されている。大阪府知事の要請に応じて最大 30 床の病床確保を行う。

また、新型コロナウイルス感染症等新興感染症治療を行う診察室や待合スペース狭小等の課題に対し、感染症対策の強化等の為、増改築を行うことで検査場所及び専用病床等の確保により受入体制強化を図り、市と指定管理者が連携して取り組んでいく。

（6）医療機器の充実

医療機器において、当センターは開院時に必要となった機器を新規導入し、翌年度以降も、医療環境のさらなる充実を図っているところであるが、旧病院時から使用している医療機器・検査機器等の更新が必要であり、近年の医療ニーズや診療体制等を踏まえ、必要性や優先度を確認し、今後も更新していく。

なお、主な医療機器の導入状況は下表のとおりである。

○医療機器導入状況

購入年度	医療機器名
H26	320 列 CT
H29	放射線治療装置トモセラピー、3.0 テスラ MRI、血管造影装置、一般撮影装置 2 台、デジタル X 線 TV システム、SPECT 診断装置
H30	1.5 テスラ MRI、80 列 CT、歯科口腔外科開設用医療機器、一般撮影装置
R1	3D 画像診断装置、気管支内視鏡システム、心臓カテーテルモニタリングシステム
R2	手術支援ロボットダヴィンチ
R3	心臓血管外科用医療機器
R4	健診用・病理検査用等医療機器

3. 経営強化プランにおける6つの視点の検証

(1) 役割・機能の最適化と連携の強化

① 地域医療構想等を踏まえた当センターの果たすべき役割・機能

当センターは、高度急性期病床283床（内、ICU8床）、回復期病床（緩和ケア病床）24床の合計307床の病床で運用しており、需要の高いがん医療、難病医療、呼吸器疾患及び政策的医療として小児医療を実施している。今後は、救急患者の受入れ強化・拡充を図るため、令和7年度増築棟開設時に合わせ高度急性期病床283床のうち最大24床を高度治療室（HCU）へ転換を図る。本計画期間中の令和7年～9年度についても、高度急性期機能を中心とした医療を実施していく方針であり、病床機能・病床数に変更はない。

この先、人口減少や高齢化社会が進む中、地域医療構想を踏まえ、当センターは地域における基幹的な公的医療機関として、地域医療確保のため重要な役割を担っていく必要があり、医療ニーズの質・量の変化や労働力人口の減少を見据え、質の高い医療を効率的に提供できる体制づくりを構築し、医療機関の機能分化・連携に取り組む必要がある。

なかでも、救急、小児、災害、感染症についての医療提供が特に重要視されていることから、当センターとしては、市内の医療機関だけでなく、泉州二次医療圏の医療機関とも連携を図り、高度急性期医療を実施している協力・支援病院である岸和田徳洲会病院（三次救急医療機関）と電子カルテの相互利用により、日常の診療内容が確認できるなど救急患者の安全性向上や切れ目のない病院間の連携、さらに、診療科目や病院の特色を補完しあいながら運営することにより地域における医療機能の共有化など連携強化を図っていく。

年度	高度急性期	回復期
R5	283床<下記内訳> 特定集中治療室管理料1：8床 小児入院医療管理料4：17床 急性期一般入院料1：258床 (専ら悪性腫瘍を診療する病床を含む)	24床 緩和ケア病棟入院料1
R7 ～ R9	283床<下記内訳> 特定集中治療室管理料1：8床 ハイケアユニット入院医療管理料：最大24床 小児入院医療管理料4：17床 急性期一般入院料1：234床 (専ら悪性腫瘍を診療する病床を含む)	24床 緩和ケア病棟入院料1

② 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割・機能

平成 25 年度には「和泉市市民を中心とした医療と介護の連携推進条例」を施行しており、これに基づき、「和泉市医療と介護の連携推進審議会」及びその専門部会が設置されている。

当センターは、地域の実情も把握し、これからの社会にふさわしい医療と介護の連携を強化する地域の中核病院として、がん地域連携パス制度や連携登録医制度の導入、地域医療支援病院運営委員会の設置、地域の医療介護研修会などにより、市内の慢性期病院等の医療機関や介護施設等との連携に努めつつ在宅医療と介護を一体として提供できる体制の構築推進に寄与していく。

また、指定管理者である医療法人徳洲会は、新たに市内に特定施設入居者生活介護、認知症共同生活介護の介護施設を令和 6 年中（予定）に設け、住み慣れた地域での生活拠点を整備する。

医療と介護の連携目標

(単位：回)

年度	R5	R6	R7	R8	R9
地域医療支援病院運営委員会	4	4	4	4	4
地域の医療介護研修会	8	8	8	8	8

③ 機能分化・連携強化

指定管理者制度導入後、医師数、入院・外来患者数が増加するとともに、収支も大幅な増益となり黒字転換するなど経常収支は高水準となっている。

新病院建設時に計画していた医師数や外来患者数より大幅増加したことで、診療スペース、待合スペースの外来機能が低下してきていることから、診療の実情を踏まえ、地域医療提供体制との連携も図ったうえで、増築棟を新たに建設（令和 7 年度完成予定）及び現建築物の改修を行い、外来機能スペース等を拡張する。がんセンターにおいては、外来化学療法室、がん相談支援センターを拡張、新たにがんゲノム外来を設置し、更なる充実を図る。また、増築棟には市民の医療ニーズに沿った難病センター、呼吸器センターを新たに設置し、更なる医療サービス向上に努める。

また、連携強化においては、令和 4 年 3 月に「地域医療支援病院」の承認を受け、地域の医療機関とより密に連携し、紹介率・逆紹介率の向上に取り組むと同時に、小児医療を専門とする地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪母子医療センターと令和 4 年 10 月に「地域医療における住民の健康と健やかな成育支援等に関する連携協定」を締結し、更なる質の高い医療提供及び地域医療の連携強化に取り組む。医師等の派遣については、地域において、派遣ニーズがないため実施していないが、今後の状況に応じて検討を行い、医療水準の向上と持続可能な経営基盤の確保を行っていく。

年度	R5	R6	R7	R8	R9
外来機能向上	増築棟建築 の設計	増築棟建築	がんセンター、難病センター、 呼吸器センター運営		

④ 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標

本プランの最終年度である令和 9（2027）年度を目途に次の数値目標を設定

年 度	R5	R6	R7	R8	R9
救急搬送者数（人）	3,800	3,900	4,000	4,100	4,200
手術件数（手術室内）	3,102	3,326	3,551	3,775	4,000
患者満足度（％）	82.1	82.8	83.6	84.3	85.0
在宅復帰率（％）	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
クリニカルパス使用率（％）	52.8	53.4	53.9	54.5	55.0
紹介率（％）	73.3	73.7	74.2	74.6	75.0
逆紹介率（％）	92.0	92.3	92.5	92.8	93.0
臨床研修医の受入件数（人）	8	9	9	9	9
健康・医療相談件数（件）	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100

⑤ 一般会計負担の考え方（繰出基準の概要）

(1) 救急医療の確保に要する経費及び小児医療に要する経費

（指定管理者に交付する指定管理料）

※当該年度の普通交付税の算定で定められる 1 病床あたりの単価に病床数を乗じた額を上限。

(2) 病院の建設改良に要する経費（建設改良費、企業債元利償還金）の 1/2

（ただし、平成 14 年度までに着手した事業の企業債元利償還金は 2/3）

年度	R5	R6	R7	R8	R9
指定管理料	普通交付税の算定で定められる 1 病床あたりの単価(72 万円) ×病床数	普通交付税の算定で定められる 1 病床あたりの単価×病床数			
市償還金	病院の建設改良に要する経費×1/2				

⑥ 住民への取組周知

平成 30 年 4 月に新病院として開院した当センターは、設計段階の旧病院時代、1 日の平均外来患者数 559 人と比較すると令和 4 年度 1,058 人と約 2 倍に激増する状況となり、診察室や待合スペース狭小等の課題が生じている。

そのため、利用者の利便性の向上及び感染症対策の強化等を目的として、当センターの増改築を行うことで、さらに高度急性期医療、急性期医療、回復期医療（緩和）に注力していくことを、市ホームページや院内掲示等により市民等に周知する。

年度	R5	R6	R7	R8	R9
増改築等に関する こと	広報 ホームページ 院内掲示	ホームページ 院内掲示	広報 ホームページ 院内掲示	ホームページ 院内掲示	ホームページ 院内掲示

(2) 医師・看護師等の確保と働き方改革

① 医師・看護師等の確保数値目標

平成 26 年 4 月より指定管理者である医療法人徳洲会が運営を行っている。平成 30 年 4 月に新築移転し、病院機能の拡大に伴い職員数は増加となった。

今後も職員確保、定着を向上させていくために「魅力ある職場づくり」を進めていく。そのためには、「働きがい」「働きやすさ」の意識向上が重要である。職員ひとりひとりが市民から信頼されているという意識をもてるような職場環境づくり、日進月歩する医療を学ぶ環境、知識、技術習得するための研修支援の提供、話し合える職場環境を整え職員確保に努める。

(単位：人)

年度 (常勤)	R5	R6	R7	R8	R9
医師	131	137	140	140	140
看護師	338	358	365	365	365
技師	126	130	135	140	145
薬剤師	27	30	32	35	38

② 臨床研修医の受入れ等を通じた若手医師の確保数値目標

多くの診療科を取り揃えた基幹型臨床研修病院として令和 3 年度は 7 人、令和 4 年度は 7 人の初期臨床研修医の受入を行っており、新たに令和 5 年度は 8 人、令和 6 年度は 9 人を受け入れる予定である。また、専門研修プログラムもあるため、初期研修終了後も当院で継続して研修が可能である。令和 6 年度に卒後臨床研修評価 (JCEP) を取得予定。研修の質の改善・向上に努めている病院としてさらに認知度を高め、若手医師の確保を図る。

(単位：人)

年度	R5	R6	R7	R8	R9
研修医受入	8	9	9	9	9

③ 医師の働き方改革への対応

令和 6 年度より医師の時間外労働の上限規制が開始されることから、宿日直許可申請をはじめ、医師の負担軽減を図るべく職員数の確保、適切な労務管理の推進、

ワークシェア・タスクシフトの推進などを組織的に取り組み、A 水準（年 960 時間未満）を目指す。宿日直許可については 3 つの区分で許可済、2 つの区分を許可申請予定。

（単位：人）

年度	R6	R7	R8	R9
時間外労働	A 水準（960 時間未満）			

（３）経営形態の見直し

平成 26 年 4 月から指定管理者制度を導入しており、指定管理者の民間のノウハウを活かしながら健全経営に向けた取り組みを行っている。導入後は、救急医療の再開、市からの赤字補填補助金の解消、当センターの建設が実現し、着実に病院機能が再生し、医療の安定提供など効果が現れている。なお、この経営形態の見直しについて、平成 30 年 3 月に公表された「地方公営企業の抜本的な改革等に係る先進・優良事例集」（総務省自治財政局公営企業課）に掲載され、先進事例として評価された。

さらに、平成 30 年度に 32 診療科 82 人の医師体制にて当センターがオープンしてからは、救急医療の実施、放射線治療装置トモセラピーの導入、MRI・CT など検査機器の充実、手術支援ロボットダヴィンチの導入、国の地域がん診療連携拠点病院の指定、大阪府の地域医療支援病院の認定などの取り組みにより医療水準の向上を図った。

医療水準向上の主な取り組みとして、①医師確保、②救急・急性期医療においては、救急科の設置、24 時間 365 日体制での救急医療を実施、③がん医療においては、高精度放射線治療装置トモセラピーを整備、外来化学療法室・緩和ケア病棟の充実、④難病センター、呼吸器センターの整備、⑤その他の医療機能においては、内分泌・糖尿病内科、脳神経内科の新設、人工透析室の整備等を行った。

これらにより、想定をはるかに超える入院・外来数となり、大幅に収支が好転し経営健全化を達成できた。なお、常勤医師数の推移、入院・外来患者数や病床稼働率、診療単価、経常収支比率の実績と目標数値との比較については、下表のとおりである。

今後においても医療水準の向上とともに、継続的に外部有識者による経営評価委員会において運営状況を点検、評価して、持続可能な経営基盤の確保を行っていく。

【経営強化プランにおける数値目標】

経営強化プランにおける数値目標設定の考え方

- ・令和 6 年 4 月から増築工事、令和 7 年新館増築棟オープン予定。
- ・令和 7 年 8 月から本館改修工事、令和 8 年全体オープン予定。
- ・待合スペースの拡張、診察室の増室（46 室⇒約 70 室）を図る。
- ・救急医療の受入拡充、感染症対策に伴う病床等の受入体制強化を図る
- ・がんセンター拡張による診察室の増室（4 室⇒約 8 室）を図る。
- ・化学療法用ベッドの増床（17 床⇒約 30 床）を図る
- ・透析室拡張による透析用ベッドの増室（12 床⇒約 30 床）を図る。
- ・健診センター拡張による人間ドック、特定健診の受入拡充を図る。

○入院患者数等の目標数値

年度	R6	R7	R8	R9
1 日あたり患者数（人）	292	292	295	295
病床利用率（％）	95	95	96	96
入院診療単価（円）	77,880	77,880	77,880	77,880

○外来患者数等の目標数値

年度	R6	R7	R8	R9
1 日あたり患者数（人）	1,008	1,008	1,050	1,100
外来診療単価（円）	23,150	23, 150	23, 150	23, 150

○和泉市消防本部からの救急患者受入率

年度	R6	R7	R8	R9
救急搬送受入率（％）	28.0	28.0	30.0	30.0

（４）新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組

今般の新型コロナウイルス感染症の対応において、当センターは、診療・検査医療機関、軽症・中等症・重症患者の入院受入れ病院及びワクチンの集団接種会場と複数の機能を担い、地域の中核的な医療機関としての役割を可能な限り果たしてきたが、感染症への対応を念頭に置いて建設された建物ではないこともあり、設備・人員体制が不十分なもとでは自ずと限界があった。

当センターは、感染症対策強化等のため、増築棟（令和 7 年度完成予定）を整備することで感染拡大時に活用しやすい病床や転用しやすいスペース等を整備し受入体制強化を図ります。また、感染拡大時における各医療機関の間での連携・役割分担の明確化、感染拡大時を想定した専門人材の確保・育成、感染防護具等の備蓄、院内感染対策の徹底、クラスター発生時の対応方針等について、より具体的な内容に医療関連感染防止マニュアルを改訂し、それを実践することにより、新興感染症の感染拡大時に備えてまいります。

また、大阪府が策定する第 8 次医療計画（令和 6 年度～）の記載事項として「新興感染症等の感染拡大時の医療」が盛り込まれることになっていますので、これと整合性のとられた内容となるよう改定します。

年度	R5	R6	R7	R8	R9
医療関連感染 防止マニュアル	国基準に合わせ改訂				

(5) 施設・設備の最適化

①施設・設備の適正管理と整備費の抑制

平成 26 年 4 月から指定管理者制度により医療法人徳洲会が運営を行い民間のノウハウを活かした経営改善に取り組んだ結果、当センターの建設が実現し、着実に病院再生し、医療の安定提供など効果が現れている。

患者数の増加に伴う診察室や待合スペース狭小等による課題に対し、利用者の利便性の向上及び感染症対策強化等を目的とした当センターの増築棟を整備することについては、指定管理者の専門的な知見を活用すること等により整備費の抑制を図る。

年度	R5	R6	R7	R8	R9
増築棟の整備 及び 本館改築工事	増築棟建築 の設計	増築棟工事	増築棟工事 本館改築工事	—	—

②デジタル化への対応

電子カルテ及びマイナンバーカードの健康保険証利用（オンライン資格確認）並びにその他各種情報システム等を活用し、医療の質の向上、医療情報の連携及び働き方改革の推進と病院経営の効率化を目指す。なお、電子カルテについては、指定管理者である医療法人徳洲会が使用するシステムを平成 26 年度から導入し三次救急医療機関である協力・支援病院の岸和田徳洲会病院とシステム連携を行っている。また、同法人が令和 5 年度から指定管理を開始した本市の和泉診療所とも連携を開始した。

万一、サイバー攻撃による被害が生じた場合であっても、独自システムによりそれらを最小限に抑えられるよう情報セキュリティ対策に努める。

(単位：件)

年度	R5	R6	R7	R8	R9
情報セキュリティ対策	医療情報システムの安全管理に関するガイドラインに基づき対策				
漏洩・被害	0	0	0	0	0

(6) 経営の効率化等

① 経営指標に係る数値目標

指定管理者制度導入により収支黒字を達成している状況である。

計画期間中の経営に関する数値目標は、指定管理者が計画する別表 1（参考資料）令和 4 年度収支計画である。

② 経営強化プラン対象期間中の各年度の収支計画等

○経常収支比率の実績、目標数値比較 (単位：%)

年度	R6	R7	R8	R9
経常収支比率	109	109	108	108
修正医業収支比率	108	108	107	107

4. 公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証要請の対応

国は、令和元年 9 月に個別の公立・公的医療機関等に係る急性期機能等の診療実績等によるデータ分析に基づいて、実績が少ない又は診療領域が類似かつ地理的に近接する病院がある医療機関を公表し、地域医療構想の取組を推進すべく具体的対応方針の再検証要請を通知した。

大阪府内医療機関においては、当センターを含め 11 医療機関が再検証要請となり、令和 2 年 3 月 30 日の第 53 回大阪府医療審議会において、各医療圏での審議を踏まえ、2 医療機関が継続協議となり、残りの 9 医療機関が方向性について合意がなされた。

当センターにおいては、厚生労働省が再検証した分析データは平成 29 年度の旧市立病院時のものであったことから、平成 30 年度新築移転後の診療実績及び医療圏域における当センターの役割が再認識され、再編統合等をする必要なく現状の医療方針にて合意がなされたところである。

Ⅱ. 新たな展開～具体的な取組～

1. 医療環境の向上

当センターはオープンして5年が経過したが、入院患者等利用者が快適に使用していただけるよう適正な施設の維持管理に努めてきた。

令和4年度には、1日平均の外来患者数1,058人となり、新改革プランでの想定数(平成30年度549人)をはるかに上回り、外来待合スペースが手狭な状況になっている。

医師確保に伴い、診療コマ数を増加することができた反面、外来診療スペース等が不足している。さらに、当センターの診療の特色のひとつであるがん診療においては、国の地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、がん治療の治験・臨床試験等のがんセンターの機能拡充や化学療法スペースの更なる確保が課題である。

また、2024年4月より難病診療連携拠点病院に指定されたことで泉州医療圏内の難病疾患患者に対して早期診断、早期治療を行える地域と連携した体制づくりが課題である。加えて、国の医療政策に則った在院日数の短縮化を見通して、地域を巻き込み、専門医療の継続が可能になるような体制づくりが必要になる。

このことから、外来機能を中心としたがん医療、難病医療、呼吸器医療、感染症対策に対応する増築棟を新たに建築し、引き続き、質の高い医療サービス向上に取り組む。

また、災害時医療についても強化が必要であり病院全体として取り組んでいく。

2. 経営強化プランの実施状況の点検、評価、公表

当センターにおいては、附属機関として管理運営が適切に実施されているか確認、評価し、医療水準の維持及びサービスの向上につなげるため外部有識者で組織する経営評価委員会を設置し、中間期及び決算期において年2回評価を頂いている。

経営評価委員会には、指定管理者の医師・看護師等が参加し、指定管理者による公立病院として期待される役割・機能の発揮状況等について、本経営強化プランの指標及び進捗状況を評価シートに基づき点検、評価、検証を行い、その結果を速やかに公表し、今後も点検・評価結果を基に医療サービスの向上のため病院改革に取り組んでいく。

別紙 1 収支計画書（指定管理者）

（単位：人、円）

		R4年度 実績	R5年度 見込	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
入院	1日平均入院患者数	285.7	292.0	292.0	292.0	295	295
	1人1日当り診療額	77,726	77,880	77,880	77,880	77,880	77,880
外来	1日平均外来患者数 ※1	1,058.0	1,122	1,117	1,122	1,202	1,266
	1人1日当り診療額	23,136	23,150	23,150	23,150	23,150	23,150

（単位：百万円）

項	目	R4年度 実績	R5年度 見込	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
	入院収入計	8,802	9,006	9,006	9,006	9,006	9,006
	外来収入計	6,072	6,337	6,337	6,337	6,760	7,182
	診療収入合計	14,874	15,343	15,343	15,343	15,766	16,188
	室料差額収入	131	133	133	133	135	135
	文書料収入	23	26	26	26	28	30
	その他収入	318	320	320	320	325	330
	保険等調整増減	▲132	▲136	▲136	▲136	▲140	▲144
	医業収入合計	15,214	15,686	15,686	15,686	16,114	16,539
	医薬品費	3,445	3,984	3,984	3,984	4,109	4,218
	医療消耗品費	1,037	1,065	1,065	1,065	1,098	1,127
	その他	377	469	469	469	483	496
	医業原価合計	4,859	5,518	5,518	5,518	5,691	5,841
	医療機器リース料	54	55	55	55	57	59
	医療機器減価償却費	36	37	37	37	38	39
	医師給与	1,338	1,375	1,375	1,375	1,478	1,478
	その他	5,030	5,166	5,166	5,166	5,328	5,468
	人件費合計	6,368	6,541	6,541	6,541	6,806	6,946
	水道光熱費	177	182	182	206	226	232
	保守衛生費	12	12	12	12	13	13
	その他	1,927	1,979	1,979	1,979	2,041	2,095
	医業経費合計	2,116	2,173	2,173	2,197	2,280	2,340
	医業費用合計	13,433	14,324	14,324	14,349	14,871	15,225
	医業利益	1,781	1,362	1,362	1,337	1,243	1,314
	減価償却費	25	26	26	26	26	27
	その他費用計	25	26	26	26	26	27
	その他収益	1,208	547	547	547	564	579
	医業外収益合計	1,208	547	547	547	564	579
	その他費用	514	528	528	528	544	559
	医業外費用合計	514	528	528	528	544	559
	経常利益	2,450	1,355	1,355	1,330	1,236	1,307
	臨時収益	21					
	臨時費用	338					
	協力負担金	152	156	156	156	161	165
	税引前利益	1,939	1,199	1,199	1,174	1,075	1,141
	医業費収支比率	113%	110%	110%	109%	108%	109%
	修正医業収支比率	112%	108%	108%	108%	107%	107%
	経常収支比率	118%	109%	109%	109%	108%	108%
	給与費率	42%	42%	42%	42%	42%	42%
	材料費率	32%	35%	35%	35%	35%	35%

※1 年延外来患者数÷診療日数

※2 徳洲会グループ全体での計画調整により変更の可能性あり

別紙2 収支計画書(病院事業会計)

収益の収支

(単位:百万円、%)

年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
区分							
収入	1. 医 業 収 益 a	217	228	228	228	228	228
	(1) 料 金 収 入	0	0				
	(2) そ の 他	217	228	228	228	228	228
	2. 医 業 外 収 益	565	556	484	462	461	444
	(1) 他 会 計 負 担 金・補 助 金	66	66	66	66	66	66
	(2) 国 (県) 補 助 金	0	0	0	0	0	0
	(3) 長 期 前 受 金 戻 入	412	404	332	309	307	294
	(4) そ の 他	87	86	86	87	88	84
	経 常 収 益 (A)	782	784	712	690	689	672
支出	1. 医 業 費 用 b	1,154	1,129	1,010	955	922	905
	(1) 職 員 給 与 費	0	0	0	0	0	0
	(2) 材 料 費	0	0	0	0	0	0
	(3) 経 費	25	68	68	68	68	68
	(4) 減 価 償 却 費	908	840	721	666	633	616
	(5) そ の 他	221	221	221	221	221	221
	2. 医 業 外 費 用	83	74	74	74	74	71
	(1) 支 払 利 息	74	74	74	74	74	71
	(2) そ の 他	9	0	0	0	0	0
	経 常 費 用 (B)	1,237	1,203	1,084	1,029	996	976
経 常 損 益 (A)-(B) (C)		▲ 455	▲ 419	▲ 372	▲ 339	▲ 307	▲ 304
特別損益	1. 特 別 利 益 (D)	0	0	0	0	0	0
	2. 特 別 損 失 (E)	0	0	0	0	0	0
	特 別 損 益 (D)-(E) (F)	0	0	0	0	0	0
純 損 益 (C)+(F)		▲ 455	▲ 419	▲ 372	▲ 339	▲ 307	▲ 304
累 積 欠 損 金 (G)		13,857	14,276	14,648	14,987	15,294	15,598
資金不足額	流動資産 (H28まで貸倒引当金を除く) (ア)	2	2	2	2	2	2
	流動負債 (翌年度償還企業債を除く) (イ)	2	2	2	2	2	2
	う ち 一 時 借 入 金	0	0	0	0	0	0
	翌 年 度 繰 越 財 源 (ウ)	0	0	0	0	0	0
	当 年 度 許 可 債 で 未 借 入 又 は 未 発 行 の 額 (エ)	0	0	0	0	0	0
	資金不足額 (健全化法施行令第16 ((イ)-(エ))-((ア)-(ウ))) (オ)	0	0	0	0	0	0
	健全化法第22条により算定した資金不足 比率	-	-	-	-	-	-
経 常 収 支 比 率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$		63.2	65.2	65.7	67.1	69.2	68.9
医 業 収 支 比 率 $\frac{a}{b} \times 100$		18.8	20.2	22.6	23.9	24.7	25.2
地方財政法施行令第19条第1項により 算 定 し た 資 金 の 不 足 額 (H)		0	0	0	0	0	0
地 方 財 政 法 に よ る $\frac{(H)}{a} \times 100$ 資 金 不 足 の 比 率		-	-	-	-	-	-

資本的収支

年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
区分							
収入	1. 企業債	83	200	420	400	200	600
	2. 他会計出資金	632	600	579	550	506	437
	3. 他会計負担金	0	0	0	0	0	0
	4. 他会計借入金	0	0	0	0	0	0
	5. 他会計補助金	0	0	0	0	0	0
	6. 国（県）補助金	0	0	0	0	0	0
	7. 工事負担金	0	0	0	0	0	0
	8. 固定資産売却代金	0	0	0	0	0	0
	9. その他	480	374	353	325	352	356
	収入計 (a)	1,195	1,174	1,352	1,275	1,058	1,393
	うち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額 (b)	0	0	0	0	0	0
	前年度同意等債で当年度借入分 (c)	0	0	0	0	0	0
支出	純計(a)－[(b)+(c)] (A)	1,195	1,174	1,352	1,275	1,058	1,393
	1. 建設改良費	83	200	420	400	200	600
	2. 企業債償還金	1,162	987	945	888	874	812
	3. 他会計長期借入金返還金	0	0	0	0	0	0
	4. その他	0	0	0	0	0	0
	支出計 (B)	1,245	1,187	1,365	1,288	1,074	1,412
	差引不足額 (B)－(A) (C)	50	13	13	13	16	19
	1. 損益勘定留保資金	0	0	0	0	0	0
	2. 利益剰余金処分数額	0	0	0	0	0	0
	3. 繰越工事資金	0	0	0	0	0	0
	4. その他	50	13	13	13	16	19
	計 (D)	50	13	13	13	16	19
補てん財源	補てん財源不足額 (C)－(D) (E)	0	0	0	0	0	0
	当年度許可債で未借入又は未発行の額 (F)	0	0	0	0	0	0
	実質財源不足額 (E)－(F)	0	0	0	0	0	0

一般会計等からの繰入金の見通し

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
収益的収支	261	260	260	260	260	258
資本的収支	632	600	579	551	506	437
合 計	893	860	839	811	766	695

和泉市消防本部 救急搬送件数(令和5年4月～令和5年12月)

<重症度別>

(括弧内は構成比 単位:人、%)

		死亡	重篤	重症	中等症	軽症	その他	令和5年度 合計(A)	令和4年度 合計(B)	前年同月比 (A)-(B)
市内	和泉市立総合医療センター	36	1	185	317	1,294	1	1,834 (23.6)	1,666 (22.8)	168 + 10.1%
	府中病院	47	0	229	532	1,691	0	2,499 (32.2)	2,489 (34.0)	10 + 0.4%
	咲花病院	0	0	9	39	107	0	155 (2.0)	102 (1.4)	53 + 52.0%
	光生病院	0	0	37	8	60	0	105 (1.4)	106 (1.5)	▲ 1 ▲ 0.9%
	大阪母子医療センター	0	0	5	43	106	0	154 (2.0)	214 (2.9)	▲ 60 ▲ 28.0%
	その他	0	0	2	4	14	0	20 (0.3)	13 (0.2)	7 + 53.8%
	市内計	83	1	467	943	3,272	1	4,767 (61.4)	4,590 (62.8)	177 + 3.9%
市外	岸和田徳洲会病院	10	0	112	186	673	0	981 (12.6)	807 (11.0)	174 + 21.6%
	馬場記念病院	4	0	41	113	272	0	430 (5.5)	406 (5.6)	24 + 5.9%
	ベルランド病院	2	0	36	63	201	0	302 (3.9)	301 (4.1)	1 + 0.3%
	近畿大学病院	1	0	34	47	100	0	182 (2.3)	134 (1.8)	48 + 35.8%
	堺市立総合医療センター	4	0	23	44	95	0	166 (2.1)	141 (1.9)	25 + 17.7%
	岸和田市民病院	0	0	14	34	137	0	185 (2.4)	172 (2.4)	13 + 7.6%
	泉大津市立病院	0	0	1	17	70	0	88 (1.1)	93 (1.3)	▲ 5 ▲ 5.4%
	高石藤井病院	0	0	6	15	33	0	54 (0.7)	39 (0.5)	15 + 38.5%
	その他	1	0	108	153	344	0	606 (7.8)	627 (8.6)	▲ 21 ▲ 3.3%
	市外計	22	0	375	672	1,925	0	2,994 (38.6)	2,720 (37.2)	274 + 10.1%
合計		105	1	842	1,615	5,197	1	7,761 (100.0)	7,310 (100.0)	451 + 6.2%

診療科別 紹介患者数(令和5年4月～令和5年12月)

(単位:人)

診療科名	令和5年度	令和4年度	増減	増減率 (%)
消化器内科	1,814	1,624	190	11.7
呼吸器内科	1,505	1,406	99	7.0
歯科口腔外科	1,068	974	94	9.7
放射線科	1,189	1,119	70	6.3
整形外科	637	675	▲ 38	▲ 5.6
循環器内科	750	750	0	0.0
耳鼻いんこう科	701	661	40	6.1
小児科	679	685	▲ 6	▲ 0.9
総合内科	247	280	▲ 33	▲ 11.8
泌尿器科	731	646	85	13.2
肝胆膵内科	515	469	46	9.8
内分泌・糖尿病内科	388	365	23	6.3
リウマチ・膠原病内科	381	337	44	13.1
皮膚科	453	371	82	22.1
脳神経内科	419	435	▲ 16	▲ 3.7
脳神経外科	160	324	▲ 164	▲ 50.6
外科	382	342	40	11.7
婦人科	306	362	▲ 56	▲ 15.5
腫瘍内科	150	371	▲ 221	▲ 59.6
形成外科	298	279	19	6.8
血液内科	181	167	14	8.4
呼吸器外科	151	126	25	19.8
腎臓・透析内科	107	100	7	7.0
乳腺外科	102	130	▲ 28	▲ 21.5
眼科	85	85	0	0.0
救急科	105	85	20	23.5
精神科	43	37	6	16.2
心臓血管外科	47	32	15	46.9
緩和医療科	127	—	127	皆増
乳腺内科	41	—	41	皆増
合 計	13,762	13,237	525	4.0

※再診患者を含む。

診療科別 逆紹介患者数(令和5年4月～令和5年12月)

(単位:人)

診療科名	令和5年度	令和4年度	増減	増減率 (%)
歯科口腔外科	1,202	1,166	36	3.1
消化器内科	1,381	1,150	231	20.1
整形外科	556	685	▲ 129	▲ 18.8
放射線科	938	964	▲ 26	▲ 2.7
循環器内科	806	846	▲ 40	▲ 4.7
呼吸器外科	869	754	115	15.3
呼吸器内科	927	853	74	8.7
総合内科	239	182	57	31.3
腫瘍内科	120	398	▲ 278	▲ 69.8
肝胆膵内科	403	349	54	15.5
皮膚科	68	146	▲ 78	▲ 53.4
内分泌・糖尿病内科	308	281	27	9.6
脳神経内科	374	274	100	36.5
外科	351	332	19	5.7
耳鼻いんこう科	535	341	194	56.9
脳神経外科	90	214	▲ 124	▲ 57.9
泌尿器科	323	329	▲ 6	▲ 1.8
小児科	278	396	▲ 118	▲ 29.8
救急科	178	190	▲ 12	▲ 6.3
血液内科	117	120	▲ 3	▲ 2.5
リウマチ・膠原病内科	128	109	19	17.4
眼科	93	101	▲ 8	▲ 7.9
婦人科	55	54	1	1.9
腎臓・透析内科	70	60	10	16.7
乳腺外科	83	77	6	7.8
形成外科	47	19	28	147.4
精神科	20	14	6	42.9
心臓血管外科	32	9	23	255.6
緩和医療科	35	－	35	皆増
乳腺内科	115	－	115	皆増
合 計	10,741	10,413	328	3.1

診療科別単価 前年度比較(4月～12月)

(常勤医師配属診療科のみ)

入院	令和5年度	令和4年度
外科	126,324円	103,145円
血液内科	122,814円	100,697円
循環器内科	101,522円	93,697円
婦人科	87,625円	83,265円
整形外科	85,843円	83,024円
泌尿器科	82,196円	79,964円
形成外科	75,789円	74,861円
耳鼻いんこう科	68,507円	70,210円
消化器内科	68,237円	65,110円
脳神経内科	66,945円	63,924円
歯科口腔外科	66,514円	63,071円
小児科	61,877円	67,922円
乳腺内科	60,977円	0円
呼吸器内科	60,432円	66,876円
リウマチ・膠原病内科	56,600円	51,309円
腫瘍内科	55,295円	56,090円
肝胆膵内科	51,688円	52,279円
皮膚科	51,365円	53,175円
内分泌・糖尿病内科	50,985円	46,365円
脳神経外科	0円	55,577円
全診療科平均	78,847円	76,662円

外来	令和5年度	令和4年度
腫瘍内科	94,157円	88,307円
脳神経内科	89,739円	95,689円
乳腺内科	78,296円	0円
血液内科	63,804円	69,515円
消化器内科	33,476円	24,165円
放射線科	29,596円	27,328円
リウマチ・膠原病内科	26,505円	25,631円
呼吸器内科	25,799円	26,771円
泌尿器科	21,868円	16,156円
肝胆膵内科	21,671円	23,225円
外科	15,645円	15,451円
内分泌・糖尿病内科	14,136円	15,015円
婦人科	13,836円	12,281円
心臓血管外科	11,954円	12,282円
循環器内科	11,224円	11,359円
小児科	10,817円	15,471円
脳神経外科	10,472円	9,479円
整形外科	8,993円	8,821円
形成外科	8,508円	8,436円
耳鼻いんこう科	8,399円	8,364円
腎臓・透析内科	7,796円	8,162円
歯科口腔外科	7,794円	8,189円
精神科	7,083円	6,813円
皮膚科	5,372円	5,478円
眼科	4,824円	5,042円
全診療科平均	23,949円	23,063円

参考資料5

診療科別待ち時間（4月～12月平均）

（単位：分）

		予約あり		予約なし	
		R5	R4	R5	R4
呼吸器内科		08:58	09:23	22:16	23:15
循環器内科		06:46	06:30	13:31	17:03
肝胆膵内科		00:33	11:48	29:40	28:53
消化器内科		08:27	06:53	19:16	25:29
内分泌・糖尿病内科		04:15	04:50	25:30	26:27
リウマチ・膠原病内科		14:20	11:20	19:39	29:36
腫瘍内科		13:20	09:31	26:01	30:07
血液内科		13:17	13:44	22:52	22:21
腎臓・透析内科		07:14	07:26	12:29	18:55
脳神経内科		10:22	09:22	15:19	17:49
総合診療科		03:58	03:49	10:01	21:05
精神科		13:50	19:34	20:31	16:02
眼科		07:10	07:51	18:51	22:23
耳鼻いんこう科		08:11	09:26	27:32	29:35
外科	消化器外科	06:49	06:45	27:13	27:45
	呼吸器外科	04:45	03:40	27:05	20:15
	乳腺外科	08:34	12:28	16:33	29:20
整形外科		09:43	10:37	19:59	22:40
心臓血管外科		09:53	07:49	18:52	13:05
脳神経外科		04:57	10:01	14:17	23:07
泌尿器科		15:55	14:11	34:11	31:43
婦人科		19:15	20:32	29:03	39:14
皮膚科		07:05	07:42	50:28	41:58
形成外科		09:44	13:08	27:07	38:16
小児科		07:32	07:38	21:01	21:18
歯科口腔外科		10:18	08:05	1:18:48	1:22:16
放射線科		03:34	02:51	17:21	26:35
平均		10:07	10:02	26:43	26:58